

【表紙】

| | |
|------------|----------------------------------|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条第1項 |
| 【提出先】 | 近畿財務局長 |
| 【提出日】 | 平成25年8月27日 |
| 【事業年度】 | 第51期（自平成24年6月1日至平成25年5月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社ニイタカ |
| 【英訳名】 | Niitaka Co., Ltd. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 奥山 吉昭 |
| 【本店の所在の場所】 | 大阪市淀川区新高一丁目8番10号 |
| 【電話番号】 | 06(6391)3225 |
| 【事務連絡者氏名】 | 経営企画部長 宮川 徹 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 大阪市淀川区新高一丁目8番10号 |
| 【電話番号】 | 06(6391)3225 |
| 【事務連絡者氏名】 | 経営企画部長 宮川 徹 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

| 回次 決算年月 | 第47期 平成21年 5月 | 第48期 平成22年 5月 | 第49期 平成23年 5月 | 第50期 平成24年 5月 | 第51期 平成25年 5月 |
|-----------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 売上高(千円) | - | - | 11,526,015 | 12,238,071 | 12,819,696 |
| 経常利益(千円) | - | - | 598,661 | 488,906 | 668,098 |
| 当期純利益(千円) | - | - | 333,601 | 231,810 | 408,511 |
| 包括利益(千円) | - | - | 307,680 | 228,243 | 465,377 |
| 純資産額(千円) | - | - | 6,156,432 | 6,278,312 | 6,637,164 |
| 総資産額(千円) | - | - | 11,912,562 | 11,826,413 | 12,575,716 |
| 1株当たり純資産額(円) | - | - | 1,042.67 | 1,063.32 | 1,124.15 |
| 1株当たり当期純利益金額 (円) | - | - | 56.50 | 39.26 | 69.19 |
| 潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円) | - | - | - | - | - |
| 自己資本比率(%) | - | - | 51.7 | 53.1 | 52.8 |
| 自己資本利益率(%) | - | - | 5.4 | 3.7 | 6.3 |
| 株価収益率(倍) | - | - | 15.56 | 22.59 | 14.03 |
| 営業活動によるキャッシュ・ フロー(千円) | - | - | 724,180 | 924,816 | 1,089,115 |
| 投資活動によるキャッシュ・ フロー(千円) | - | - | 501,858 | 558,817 | 1,016,001 |
| 財務活動によるキャッシュ・ フロー(千円) | - | - | 765,280 | 368,987 | 84,046 |
| 現金及び現金同等物の期末残 高(千円) | - | - | 986,859 | 993,126 | 1,167,479 |
| 従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人) | - (-) | - (-) | 228 (68) | 281 (84) | 284 (88) |

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第49期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。また、第49期の自己資本利益率は連結初年度のため、期末自己資本に基づいて計算しております。

4. 従業員数は、就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含みます。)であり、臨時雇用者数(契約社員、嘱託社員、パートタイマー、シニアスタッフ、人材派遣会社からの派遣社員を含みます。)は、()内に外数で記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

| 回次 決算年月 | 第47期 平成21年 5月 | 第48期 平成22年 5月 | 第49期 平成23年 5月 | 第50期 平成24年 5月 | 第51期 平成25年 5月 |
|----------------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 売上高(千円) | 11,229,671 | 12,017,120 | 11,502,771 | 11,733,659 | 12,192,446 |
| 経常利益(千円) | 300,272 | 1,019,995 | 631,899 | 476,768 | 581,424 |
| 当期純利益(千円) | 140,781 | 394,015 | 359,059 | 228,698 | 354,247 |
| 持分法を適用した場合の投資利益(千円) | - | - | - | - | - |
| 資本金(千円) | 585,199 | 585,199 | 585,199 | 585,199 | 585,199 |
| 発行済株式総数(千株) | 5,943 | 5,943 | 5,943 | 5,943 | 5,943 |
| 純資産額(千円) | 5,660,077 | 5,948,413 | 6,200,660 | 6,314,511 | 6,581,633 |
| 総資産額(千円) | 11,981,955 | 12,677,471 | 11,908,388 | 11,705,113 | 12,410,982 |
| 1株当たり純資産額(円) | 958.51 | 1,007.36 | 1,050.16 | 1,069.45 | 1,114.74 |
| 1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円) | 17.00 (9.00) | 18.00 (9.00) | 18.00 (9.00) | 18.00 (9.00) | 20.00 (9.00) |
| 1株当たり当期純利益金額 (円) | 23.84 | 66.73 | 60.81 | 38.73 | 60.00 |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額(円) | - | - | - | - | - |
| 自己資本比率(%) | 47.2 | 46.9 | 52.1 | 53.9 | 53.0 |
| 自己資本利益率(%) | 2.5 | 6.8 | 5.9 | 3.7 | 5.5 |
| 株価収益率(倍) | 32.63 | 13.23 | 14.46 | 22.90 | 16.18 |
| 配当性向(%) | 71.3 | 27.0 | 29.6 | 46.5 | 33.3 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー(千円) | 982,445 | 1,756,704 | - | - | - |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー(千円) | 438,389 | 428,587 | - | - | - |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー(千円) | 569,461 | 398,496 | - | - | - |
| 現金及び現金同等物の期末残高(千円) | 583,621 | 1,512,860 | - | - | - |
| 従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人) | 182 (57) | 188 (58) | 191 (64) | 202 (66) | 199 (71) |

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 従業員数は、就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含みます。)であり、臨時雇用者数(契約社員、嘱託社員、パートタイマー、シニアスタッフ、人材派遣会社からの派遣社員を含みます。)は、()内に外数で記載しております。

4. 持分法を適用した場合の投資利益については、第47期及び第48期は関連会社がないため、第49期以降は連結財務諸表を作成しているため記載しておりません。

5. 第49期より連結財務諸表を作成しているため、個別キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

6. 第51期の1株当たり配当額には、設立50周年記念配当金2円を含んでおります。

2【沿革】

| 年月 | 事項 |
|----------|---|
| 昭和38年4月 | 界面活性剤関連製品（液体中性洗剤等）の製造販売を目的として、大阪市東淀川区堀上通一丁目52番地（現：大阪市淀川区新高一丁目8番10号）に新高化学株式会社を設立 |
| 昭和46年11月 | 商号を新高化学工業株式会社に変更 |
| 昭和47年3月 | 東京都港区に東京営業所を設置 |
| 昭和47年8月 | 業務用固形燃料を開発し、発売 |
| 昭和53年8月 | 福岡県嘉穂郡稲築町に九州出張所（現福岡営業所）を設置 |
| 昭和54年9月 | 本社工場にエステル化設備を新設し、化粧品原料の量産体制を確立 |
| 昭和55年10月 | 大阪府摂津市に鳥飼工場（固形燃料製造設備）を新設 |
| 昭和56年1月 | 宮城県仙台市に仙台出張所（現仙台営業所）を設置 |
| 昭和60年12月 | 本社工場がJISマーク表示許可工場へ |
| 昭和62年2月 | 広島市西区に広島営業所を設置、名古屋市名東区に名古屋営業所を設置、神奈川県藤沢市に藤沢出張所を設置 |
| 昭和62年3月 | 大阪府品質管理推進優良企業賞受賞 |
| 昭和63年5月 | 札幌市豊平区に札幌出張所（現札幌営業所）を設置 |
| 平成元年8月 | 茨城県龍ヶ崎市につくば工場（液体中性洗剤製造設備、固形燃料製造設備）を新設 |
| 平成5年1月 | つくば工場がJISマーク表示許可工場へ |
| 平成5年12月 | 日本自洗機メンテナンス協会（任意団体）の設立 |
| 平成9年10月 | 滋賀県犬上郡多賀町にびわ湖工場（液体中性洗剤製造設備、洗浄剤製造設備、固形燃料製造設備）を新設 |
| 平成9年12月 | 本社工場廃止、びわ湖工場に統合 |
| 平成10年3月 | びわ湖工場がJIS表示認定工場へ |
| 平成10年5月 | 東京営業所及び熊谷営業所を移転統合し、埼玉県大宮市（現さいたま市）に東京支店を設置 |
| 平成11年5月 | 鳥飼工場廃止、びわ湖工場へ統合 |
| 平成12年4月 | 東京支店を東京都中央区へ移転 |
| 平成12年5月 | 食品添加物製造業許可取得 |
| 平成12年6月 | 食器洗浄機メンテナンス部門を分離し、株式会社 日本自洗機メンテナンス協会（本店：東京都中央区）を設立 |
| 平成12年12月 | 東京支店を東京営業部へ改組 |
| 〃 | 株式会社 日本自洗機メンテナンス協会が食器洗浄機レンタル業務を開始 |
| 平成14年9月 | 株式会社 日本自洗機メンテナンス協会の本店を、大阪市淀川区に移転 |
| 〃 | 商号を株式会社ニイタカに変更 |
| 平成15年4月 | 東京証券取引所市場第二部に株式を上場 |
| 平成15年11月 | ISO 9001認証取得 |
| 平成17年4月 | ISO 14001認証取得 |
| 平成17年7月 | 医薬部外品製造業許可取得 |
| 平成18年6月 | 株式会社 日本自洗機メンテナンス協会を吸収合併 |
| 平成18年10月 | ISO 22000認証取得 |
| 平成19年9月 | つくば工場設備増設 |
| 〃 | 中国福建省に合併会社福建新拓高日用化学品有限公司を設立 |
| 平成20年4月 | 本社新社屋完成 |
| 平成21年5月 | びわ湖工場敷地内に洗剤容器生産棟を建設 |
| 平成22年5月 | つくば工場敷地内に洗剤容器生産棟を建設、同生産設備を新設 |
| 平成23年4月 | 東京営業所を東京都江東区へ移転 |
| 〃 | 株式会社 ユーホーニイタカ（本店：茨城県常総市）を設立 |
| 平成23年5月 | 福建新拓高日用化学品有限公司を100%子会社へ |
| 平成23年6月 | 東京営業所及び藤沢営業所を統合し、東京支店を設置 |
| 平成24年6月 | 東京支店を東日本営業部に改組 |
| 平成25年6月 | つくば工場第二工場棟を増設 |

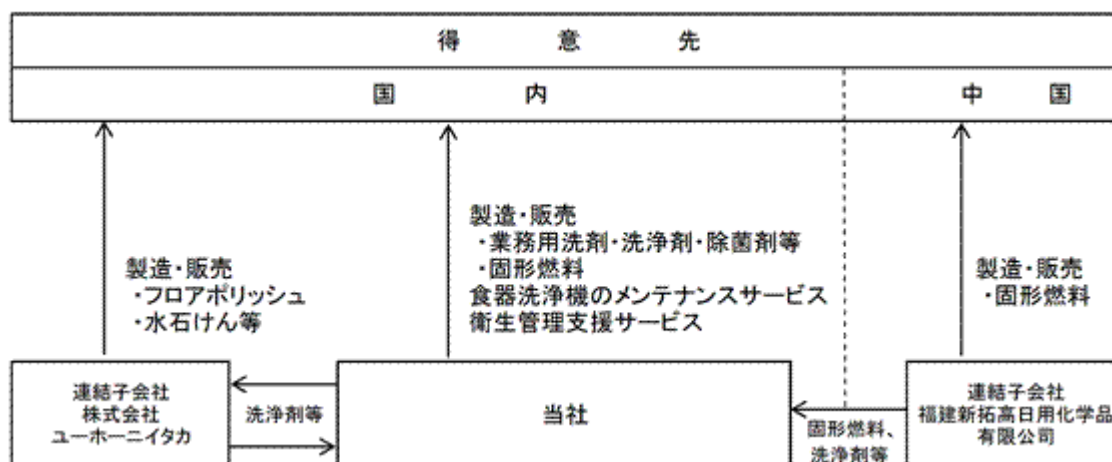
3【事業の内容】

当社グループは業務用の化成品事業として、業務用洗剤・洗浄剤・除菌剤及び固形燃料等の製造・仕入・販売を行っております。

また、当該事業に付随して、フードビジネス業界向けに、衛生管理支援サービス、食器洗浄機のメンテナンスサービスも行っております。

当社グループの現在の主要取扱品目は次のとおりであります。

| 品目 | 細品目 | 主な製品・商品 |
|-----------------------------|----------------------------|--|
| 業務用洗剤・ 洗浄剤・除菌剤 ・固形燃料等 | 食器用洗剤 | 「マイソフトコンク」「マイソフト」 「マイルドサラセン」 「スーパーサラセン」 |
| | 食器洗浄機用洗浄剤 | 「リキッドPLH」「カセットPLH」 「ジャストパックPLW」 「ハイソリッドPWH」 「スーパーWS」 「ニューリンスP」 |
| | 除菌・漂白剤 | 「ニイタカブリーチ」 「ニューホワイトアップ」 |
| | 食品添加物（殺菌料） | 「セーフコール」「サニクロール」 |
| | 洗浄剤 | 「ニューケミクール」 「厨房コンククリーナー」 「店舗コンククリーナー」 「バスクリーナーコンク」 |
| | 食品工場専用洗浄剤 | 「サニプラン除菌洗浄剤L」 「サニプラン強力洗浄剤NC」 |
| | 手洗い石けん 手指消毒剤 （医薬部外品） | 「ニイタカ薬用ハンドソープ」 「ユーホー薬用水石鹸ライム」 「手指消毒用セーフコール」 |
| | 固形燃料 | 「カエンニューエース」「暖房用燃料」 「チェーフィング用カエン」 |
| 仕入商品等 | なべ | 「ニュー箔鍋」「網なし紙鍋」 アルミ製鍋 |
| | 仕入商品 | 食品包装用ラップ、ポディーソープ、 ペーパータオル |
| | その他 | 「MOD」（化粧品原料） |



4【関係会社の状況】

連結子会社

| 名称 | 住所 | 資本金又は 出資金 | 主要な事業の内容 | 議決権の 所有割合又は被 所有割合(%) | 関係内容 |
|--------------------|------------|--------------|-----------------------------------|----------------------------|---------|
| 福建新拓高日用化学品 有限公司 | 中国 福建省 | 16百万人民元 | 固形燃料の製造・販売 食器洗浄機用洗浄剤の 製造 | 100.0 | 役員の兼任3名 |
| 株式会社 ユーホーニイタカ | 茨城県 常総市 | 10,000千円 | 建物の硬質床用洗剤・ カーペット用洗剤等の 製造・販売 | 100.0 | 役員の兼任3名 |

- (注) 1. 連結子会社福建新拓高日用化学品有限公司は特定子会社に該当しております。
2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年5月31日現在

| 従業員数(人) | |
|---------|------|
| 284 | (88) |

- (注) 従業員数は、就業人数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含みます。)であり、臨時雇用者数(契約社員、嘱託社員、パートタイマー、シニアスタッフ、人材派遣会社からの派遣社員を含みます。)は、()内に外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成25年5月31日現在

| 従業員数(人) | 平均年齢 | 平均勤続年数 | 平均年間給与(円) |
|----------|---------|---------|-----------|
| 199 (71) | 39歳 7ヶ月 | 13年 1ヶ月 | 7,279,027 |

- (注) 1. 従業員数は、就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含みます。)であり、臨時雇用者数(契約社員、嘱託社員、パートタイマー、シニアスタッフ、人材派遣会社からの派遣社員を含みます。)は、()内に外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合が結成されており、平成25年5月31日現在における組合員数は98人であります。なお、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要が一巡したこともあり、国内需要に陰りが見え始めましたが、新政権の経済政策への期待感により円安・株高が進行し、経済成長への期待が高まってきました。

一方で、円安による原材料・燃料価格の高騰が見込まれることや、新興国経済の変調及び中国経済の鈍化など、企業を取り巻く環境は、依然として先行きが不透明な状況となっております。

このような環境下、当社グループは、三方よし（買い手よし、世間よし、売り手よし）の製品・サービスの開発・拡充に努めるとともに販売活動の強化を図ってまいりました。その結果、主力製品で一定の拡販ができました。また、株式会社ユーホーニイタカの売上高も加わり、（株式会社ユーホーニイタカは、平成23年7月1日に営業を開始し、売上高及び損益は、前第2四半期連結累計期間から発生しており、前第1四半期連結累計期間には実績がありません。）当連結会計年度の売上高は、12,819百万円（前期比 4.8%増）となりました。

利益につきましては自社製造品の売上増加とコスト削減に努めた結果、営業利益は、653百万円（同 32.0%増）、経常利益は、668百万円（同 36.7%増）、当期純利益は、408百万円（同 76.2%増）となりました。

当社グループの品目別売上高は、次のとおりであります。当社グループは、業務用の化成品事業を行っており、単一セグメントであるため、セグメント別の情報は作成しておりません。

< 自社製造品部門 >（業務用洗剤・洗浄剤・除菌剤、固形燃料等）

長引くデフレや少子化の影響で、当社グループが主に依拠するフードビジネス業界は厳しい状況にありましたが、三方よしの主力製品の販売に努め、自社製造品の売上高を伸長させることができました。その結果、当連結会計年度における売上高は、9,837百万円（前期比 5.6%増）となりました。

< 仕入商品等部門 >

一定の伸長があり、当連結会計年度における仕入商品等の売上高は、2,982百万円（同 1.9%増）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は1,167百万円（前期比 17.6%増）となりました。

営業活動によって得られた資金は、1,089百万円（同 17.8%増）となりました。

投資活動に使用された資金は、1,016百万円（同 81.8%増）となりました。

財務活動によって得られた資金は、84百万円（前期は368百万円の使用）となりました。

なお、キャッシュ・フローの詳細は、「7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析（2）財政状態の分析 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

2【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは、業務用の化成品事業を行っており、単一セグメントであるため、セグメント区分に変えて品目別で記載しております。

(1) 生産実績

当連結会計年度における品目別生産実績は次のとおりであります。

| 品目 | 当連結会計年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) | 前年同期比(%) |
|-----------|--|----------|
| 自社製造品(千円) | 9,856,533 | 105.5 |

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

該当事項はありません。

(3) 商品仕入実績

当連結会計年度における品目別商品仕入実績は次のとおりであります。

| 品目 | 当連結会計年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) | 前年同期比(%) |
|-----------|--|----------|
| 仕入商品等(千円) | 2,572,340 | 103.2 |

- (注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当連結会計年度における品目別販売実績は次のとおりであります。

| 品目 | 当連結会計年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) | 前年同期比(%) |
|-----------|--|----------|
| 自社製造品(千円) | 9,837,037 | 105.6 |
| 仕入商品等(千円) | 2,982,659 | 101.9 |
| 合計(千円) | 12,819,696 | 104.8 |

- (注) 1. 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績については、総販売実績に対する割合が100分の10未満のため、記載を省略しております。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

(1) 課題と対処方針並びに具体的な取組状況等

当社グループが主に依拠するフードビジネス業界は、消費者の低価格志向や少子高齢化等の影響を受けて市場規模は横ばいもしくは縮小基調であり、企業間競争が激化しております。

また、顧客ニーズについては、高機能と低価格の両立の要請、食の安全・安心の追求、環境への配慮等々、高度化しています。特に、食の安全・安心と環境への配慮は、製品・サービスの開発と提供を考える際に、欠くことのできない観点となっております。

その他、企業への社会的責任遂行要請が高まっており、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス等を重視する姿勢と行動、社会貢献活動が求められ、これらの取り組みは、企業の成長と存続を左右する重要な課題となっております。

以上のように当社グループが対処すべき領域は広く、課題は多岐に亘りますが、これらはあらゆる企業に求められる共通の課題であり、迅速かつ適切に対応できれば他社との差別化を図ることができ、成長のチャンスとも考えられます。

(2) 会社の支配に関する基本方針について

当社における「株式会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」（以下「会社の支配に関する基本方針」といいます。）の概要は下記のとおりです。

会社の支配に関する基本方針

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、当社の企業理念、企業価値のさまざまな源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならぬと考えております。

一方、上場会社である当社の株式は、株主、投資家の皆様による自由な取引が認められており、当社の株式に対する大規模買付提案又はこれに類似する行為があった場合においても、一概に否定されるものではなく、最終的には株主の皆様による自由な意思により判断されるべきであると考えます。

しかしながら、株式の大規模買付提案の中には、濫用目的によるものや、株主の皆様による株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの等、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのあるものも想定されます。

企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大規模買付提案又はこれに類似する行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取り組みの概要

イ、「中期経営計画」による企業価値向上への取り組み

当社は、企業価値の向上を図るため、平成26年5月期を初年度とする中期経営計画「N I P Q」（N iitaka Innovation Plan）を策定しました。

中期経営計画においては、「『三方良し』の製品・サービスの提供」を基本方針とし、市場競争力の強化 コスト競争力の強化 企業体質の強化 を主要課題に掲げております。買い手（販売店、ユーザー）と世間（社会、環境）のお役に立つ製品とサービスを提供することは、売り手（当社グループ）にも利益をもたらします。社会に必要とされる企業としてあり続ける努力を重ね、さらなる企業価値向上に取り組み、業界ナンバーワンを目指します。

ロ．コーポレート・ガバナンスに関する取り組み

当社は、継続的に企業価値を高めることを目指し、コーポレート・ガバナンスを強化し、経営効率の向上及び経営の健全性の向上に努めております。

当社は、監査役制度を採用しております。取締役会、監査役会、監査法人、監査室及びCSR委員会等の各組織機関が相互に連携し、さらには内部通報制度も設け、コンプライアンスの徹底やリスク管理の充実をはじめとした内部統制システムが有効となるよう努めております。

当社取締役会は、原則として1ヶ月に1回開催（監査役も毎回出席）し、取締役会規程に定められた詳細な付議事項について十分な審議を行っております。

当社は、これらの取り組みとともに、株主の皆様をはじめ、従業員、取引先等ステークホルダーとの信頼関係をより強固なものにし、企業価値の安定的向上を目指してまいります。

会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取り組み

当社は上記基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取り組みとして「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下「本プラン」といいます。）を導入しております。

本プランでは、当社株式に対し20%以上の大規模買付行為（市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問わないものとし、あらかじめ当社取締役会が同意したものを除きます。）を行おうとする者（以下「大規模買付者」といいます。）が大規模買付行為実施前に遵守すべき、大規模買付行為に関する合理的なルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を定めております。大規模買付ルールは、当社株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断されるために必要な情報や、当社取締役会の意見を提供し、さらには当社株主の皆様が当社取締役会の代替案の提示をお受けいただく機会を確保することを目的としております。当社取締役会は、大規模買付者に対し、大規模買付行為についての評価・検討に必要な情報を当社取締役会に提供することを要請し、当該情報の提供完了後、大規模買付行為の評価・検討のための期間を設定し、当社取締役会としての意見形成や必要に応じ代替案の策定を行い、公表することとしております。したがって、大規模買付行為は、取締役会の評価・検討の期間の経過後にのみ開始されるものとします。大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守した場合は、当社取締役会は、当該大規模買付行為が、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく毀損することが明白と判断される場合を除き、対抗措置をとりません。ただし、大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守しなかった場合、遵守しても大規模買付行為が当社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、当社取締役会は、当社企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、必要性・相当性の範囲で会社法その他の法律及び当社定款が認める対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗することがあります。

本プランは、平成25年8月23日に開催の当社第51回定時株主総会において株主の皆様にご承認をいただき継続しており、その有効期限は平成28年8月に開催予定の当社定時株主総会終結時までとなっております。

本プランが、基本方針に沿うものであり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうものではなく、当社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

上記の会社の支配に関する基本方針の実現に資する取り組みは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための施策であり、まさに会社の支配に関する基本方針に沿うものであります。

また、本プランは、(イ)買収防衛策に関する指針（注1）の要件を充足していること(ロ)株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること(ハ)合理的な客観的発動要件の設定をしていること(ニ)独立性の高い社外者の判断の重視と透明な運営が行われる仕組みが確保されていること(ホ)株主意思を重視するものであること(ヘ)デッドハンド型買収防衛策（注2）やスローハンド型買収防衛策（注3）ではないこと等、会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

- (注) 1. 「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」（平成17年5月27日経済産業省・法務省）を指します。
2. デッドハンド型買収防衛策 取締役会の構成員の過半数を交替させてもその発動を阻止できない買収防衛策
3. スローハンド型買収防衛策 取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策

4【事業等のリスク】

事業の状況及び経理の状況等に関する事項のうち、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及びその他、投資者の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を以下に記載しております。当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合には迅速かつ確な対応に努める方針であります。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、本有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

(1) 特定の市場への依存について

当社グループは、主には業務用洗剤・洗浄剤・除菌剤、医薬部外品、固形燃料の製造と食品包装用ラップ、ボディソープ等の仕入を行い、これら製商品を食品卸会社、食品包装資材卸会社等を通じて飲食店、旅館、食品工場、食品スーパー等のフードビジネス業界に販売しております。なお、子会社株式会社ユーホーニイタカは、ビルメンテナンス業界へ製商品の販売をおこなっておりますが、グループ全体の売上高に占める割合は10%以下であります。

また、当社グループは、各地の提携会社を通じてフードビジネス業界向けに食器洗浄機のメンテナンスサービス、衛生管理支援サービスを提供しております。

したがって、当社グループが取扱っている製商品・サービスは、大部分がフードビジネス業界を対象としたものであり、フードビジネス業界における業務用洗剤等に対する需要動向、価格動向、既存業者との競合の状況、新規業者の参入状況により、当社の業績が影響を受ける可能性があります。

(2) 原材料価格の高騰について

当社グループが製造販売する洗剤・洗浄剤の原材料は、石油等の鉱物資源及び天然の油脂等に由来するものの比率が高くなっています。これら資源の価格は、新興国における需要増、投機的な資金の流入及び為替の変動によって高騰するリスクを抱えております。生産性の向上やコストダウンによって原価の圧縮に努めるものの、利益減少のリスクとして考えられます。

(3) 法的規制について

当社グループの取扱製商品においては、その一部が食品添加物もしくは医薬部外品に該当する他、毒物及び劇物取締法上の劇物に該当する製品も一部製造しております。また、固形燃料は消防法上の危険物に該当しております。これらにより、当社グループは、食品衛生法、薬事法、毒物及び劇物取締法、消防法による規制を受けております。また、環境保護に関連して下水道法、水質汚濁防止法、大気汚染防止法、騒音規制法、振動規制法、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律等の各種法令や当社グループの工場が所在する地域の各地方自治体と締結した公害防止協定による規制を受けております。従って、これら法的規制の改正、又は新たな法的規制の制定等により、当社グループの業績又は今後の事業展開が影響を受ける可能性があります。

(4) 品質問題による業績の悪化について

当社グループでは、経営方針である「品質第一主義」のもと、品質管理を徹底しております。しかしながら、当社グループの取扱製商品において、重大な品質トラブルが発生した場合には、当該トラブルに対応するための費用負担や当社グループに対する評価の低下から、当社グループの業績及び財務状況が影響を受ける可能性があります。

(5) 自然災害について

当社グループにとって、最大のリスクのひとつに地震リスクがあります。生産拠点は東西の2拠点制をとり、万が一、一拠点の生産活動が大きな影響を受けても補完ができるようにしております。しかし、大規模な地震により、操業が中断するような場合には、生産活動に支障が生じ、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 取引先の信用リスクについて

当社グループは数多くの取引先と取引を行っており、リスク分散を図っております。また、取引先の信用情報等を入手し、取引先のリスクに備えております。しかし、倒産のような予期せぬ事態により債権回収に支障が発生した場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 中国子会社について

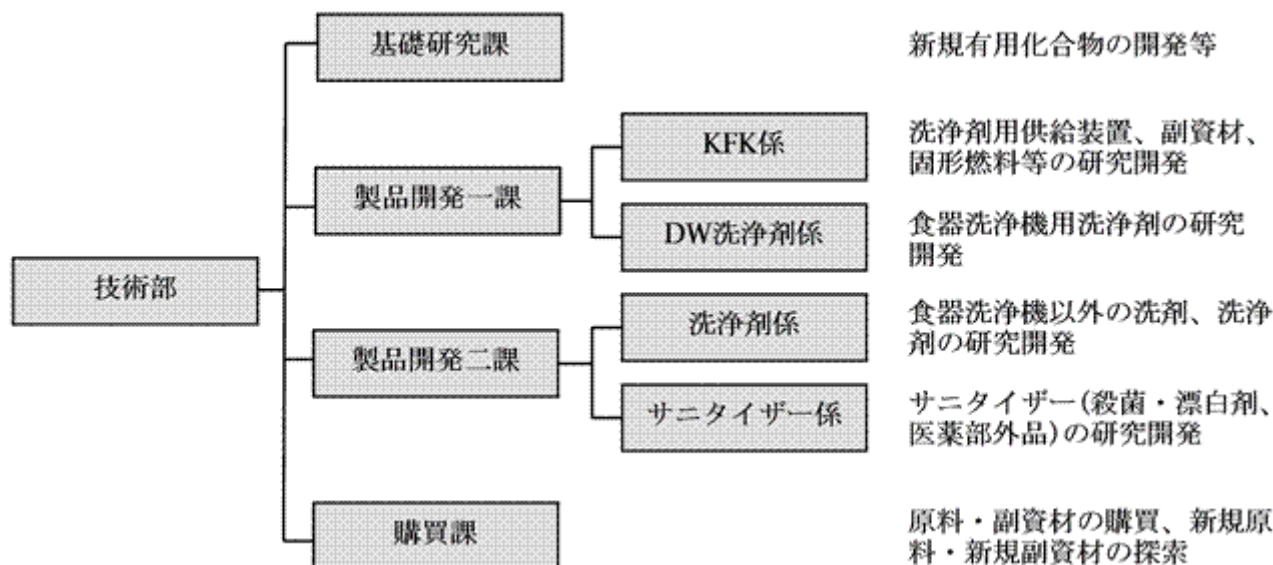
当社グループは、中国で事業を行っておりますが、今後予期しない相手国の政治的、経済的事情による影響を受け、当社グループの業績又は今後の事業展開が影響を受ける可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当連結会計年度における製品の研究・開発体制は、次のとおりであります。



当連結会計年度における研究開発費は、総額296,604千円となっております。主な研究開発成果は次のとおりであります。

(1) 食品工場向け製品「サニブランシリーズ」のラインアップ強化

前期に引き続き、食品工場向けのサニブランブランドの拡充に注力し、以下の製品を開発いたしました。これらの製品は食品工場における洗浄作業をより効率的に行うことができ、同時に衛生管理にもお役立ちできる製品であります。これにより、最終消費者の皆様の食の安全にも貢献できているものと確信しております。

サニブランは衛生的な(サニタリー)工場(プラント)、食品衛生(サニテーション)の計画(プラン)を意味するブランドで、当社の登録商標であります。

サニブラン除菌洗浄剤 A K

食品工場の床や設備機器に使用する、洗浄と同時に除菌ができる除菌洗浄剤であります。食品工場では消費者の食の安全に対する要求に応えるため、場内設備の洗浄・除菌のニーズが高く、このご要望にお応えするものであります。

サニブラン新強力洗浄剤 S H

ハム・ソーセージ工場などで製品を燻製にするスモークハウスと呼ばれる設備があります。この内部は燻煙と食材から出る油脂等の蒸気が混ざり合って落としにくい汚れが一面に付着します。スモークハウスの内部は手作業で洗浄することが困難なため、機器を用いて洗浄剤の希釈溶液を噴霧し、一定時間放置して汚れを溶解除去した後水ですすぎ洗いの方法で洗浄されます。そのため、短時間で強力な汚れ除去力を持った洗浄剤が求められますが、この用途に適した強力洗浄剤であります。

(2) 特殊用途向け洗浄剤

外食産業市場の特殊洗浄剤に注目し、以下の製品を開発いたしました。外食産業では店舗の生産性向上のため、様々な専用調理機器が導入されています。中でも熱調理機器の汚れは食材が加熱によって頑固にこびりつくため、簡単には落とすことができず、洗浄作業負荷が大きい場合があります。これらのこびりついた汚れを、作業負荷を軽減しつつ簡単に、しかもきれいに落とすことができる洗浄剤であります。多くの飲食店様の作業軽減に貢献できるものと確信しております。

グリル鉄板洗浄剤

ハンバーガーを焼くグリドルや餃子マシンなどの熱調理機器専用の洗浄剤です。熱調理機器に付着する汚れは食材から出る油脂とタンパク質やでんぷんなどが混ざり合って高熱で焼きつくため、除去が非常に困難になります。このような汚れに対して加温しながら洗浄することによって、効果的に汚れを分解除去し、ごしごこするなどの作業負荷を軽減しつつ、きれいに洗い上げることができます。

(3) 濃縮タイプ手洗い石けん液

衛生管理の基本は手洗いであり、調理に携わる方の衛生管理に貢献できる医薬部外品の手洗い石けん液を濃縮化することによって配送時のCO₂を低減でき、また、お客様での保管スペースを節減できる製品を開発いたしました。

薬用ハンドソープコンクPK

医薬部外品のハンドソープで、7～10倍に希釈して使用することができます。石けんをベースとした洗浄成分に、殺菌効果のある有効成分「トリクロサン」を配合することにより、さっぱりとした洗い上がりと同時に、確実に殺菌ができます。食品を取り扱われる場合に、食品への移香が問題となる場合があるため、香料を配合しない無香料タイプといたしました。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

売上高及び営業利益

当社グループは、三方よし（買い手よし、世間よし、売り手よし）の製品・サービスの開発・拡充に努めるとともに販売活動の強化を図ってまいりました。その結果、主力製品で一定の拡販ができました。また、株式会社ユーホーニイタカの売上高も加わり、（株式会社ユーホーニイタカは、平成23年7月1日に営業を開始し、売上高及び損益は、前第2四半期連結累計期間から発生しており、前第1四半期連結累計期間には実績がありません。）当連結会計年度の売上高は、12,819百万円（前期比4.8%増）となりました。

営業利益は、自社製品の売上増加とコスト削減に努めた結果、653百万円（同32.0%増）となりました。

営業外損益及び経常利益

営業外損益は、14百万円の利益（純額）となりました。この結果、経常利益は668百万円（同36.7%増）となりました。

特別損益

特別損益は、6百万円の損失（純額）となりました。この結果、税金等調整前当期純利益は、661百万円（同34.0%増）となりました。

法人税等及び法人税等調整額

当連結会計年度の法人税等は、252百万円となりました。税効果会計適用後の法人税等の負担率は、38.2%となりました。

当期純利益

当期純利益は、408百万円（同76.2%増）となりました。1株当たり当期純利益金額は、69円19銭となりました。

なお、品目別の売上高の概況については、「1 業績等の概要（1）業績」に記載しております。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

| | 前期 | 当期 | 増減 |
|-------------|----------|----------|-------|
| 総資産（百万円） | 11,826 | 12,575 | 749 |
| 純資産（百万円） | 6,278 | 6,637 | 358 |
| 自己資本比率 | 53.1% | 52.8% | 0.3p |
| 1株当たり純資産（円） | 1,063.32 | 1,124.15 | 60.83 |

前連結会計年度末と比較して総資産は749百万円増加し、純資産は358百万円増加しました。この結果、自己資本比率は0.3ポイント下降しました。増減の主なものは次のとおりであります。

流動資産では、受取手形及び売掛金が138百万円増加しております。

有形固定資産では、建設仮勘定が430百万円、土地が310百万円それぞれ増加し、機械装置及び運搬具が131百万円減少しております。なお、建設仮勘定並びに土地の増加は、主につくば工場第二工場棟及び洗剤ボトル生産設備増設に伴うものであり、これらの設備は平成25年6月より本格稼働しております。

投資その他の資産では、投資有価証券が39百万円増加しております。

流動負債では、1年内返済予定の長期借入金が151百万円減少しております。

固定負債では、長期借入金が568百万円増加し、リース債務が133百万円減少しております。なお、長期借入金の増加は、上記つくば工場第二工場棟関連の資金調達によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は1,167百万円（前期比17.6%増）となりました。主な内訳は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、1,089百万円（同17.8%増）となりました。主には税金等調整前当期純利益を661百万円、減価償却費を649百万円計上した一方で、売上債権が138百万円増加（資金は減少）したことなどによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、1,016百万円（同81.8%増）となりました。主には定期預金の預入による支出100百万円、有形固定資産の取得による支出887百万円があったことなどによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は、84百万円（前期は368百万円の使用）となりました。主には長期借入れによる収入750百万円があった一方で、長期借入金の返済332百万円、配当金の支払額106百万円、リース債務の返済176百万円の支出があったことなどによるものです。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の内訳は次のとおりであります。

| 事業所 | 当連結会計年度の設備投資金額 |
|---------|----------------|
| つくば工場 | 785百万円 |
| 本社及び営業所 | 96百万円 |
| びわ湖工場 | 82百万円 |
| その他 | 32百万円 |
| 合計 | 996百万円 |

(注) 当社グループは、業務用の化成品事業を行っており、単一セグメントであるため、セグメント別の情報は作成しておりません。

当連結会計年度において実施いたしました当社グループの設備投資(無形固定資産「ソフトウェア」を含む)の総額は、996百万円であります。主なものは、つくば工場第二工場棟及びボトル生産設備増設に伴うものであります。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成25年5月31日現在

| 事業所名 (所在地) | 設備の 内容 | 帳簿価額 | | | | | | 従業員数 (人) |
|------------------------|--------------|---------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------|-------------|------------|-------------|
| | | 建物及び 構築物 (千円) | 機械装置 及び 運搬具 (千円) | 土地 (千円) (面積㎡) | リース 資産 (千円) | その他 (千円) | 合計 (千円) | |
| びわ湖工場 (滋賀県犬上郡多賀町) | 生産設備 物流倉庫 | 865,899 | 152,068 | 800,381 (28,915.51) | 29,776 | 23,690 | 1,871,816 | 32 (16) |
| つくば工場 (茨城県龍ヶ崎市) | 生産設備 物流倉庫 | 841,668 | 213,165 | 767,395 (37,321.43) | 276,672 | 450,879 | 2,549,781 | 24 (13) |
| 本社 (大阪市淀川区) | その他 | 626,770 | 11,822 | 566,549 (2,147.46) | 36,393 | 65,801 | 1,307,337 | 84 (32) |
| 東京北・東・西営業所 (東京都江東区) | その他 | 1,794 | - | - (-) | - | 437 | 2,231 | 34 (5) |
| 札幌営業所 (札幌市中央区) | その他 | - | - | - (-) | - | 67 | 67 | 4 (1) |
| 仙台営業所 (仙台市若林区) | その他 | 466 | - | - (-) | - | 70 | 536 | 5 (1) |
| 名古屋営業所 (名古屋市名東区) | その他 | - | - | - (-) | - | 71 | 71 | 6 (1) |
| 広島営業所 (広島市西区) | その他 | - | - | - (-) | - | 69 | 69 | 5 (1) |
| 福岡営業所 (福岡市東区) | その他 | 805 | - | - (-) | - | 74 | 880 | 5 (1) |
| その他社宅 | 社宅 | 17,003 | - | 158,441 (1,715.42) | - | - | 175,445 | - (-) |
| 合計 | | 2,354,408 | 377,056 | 2,292,767 (70,099.82) | 342,841 | 541,162 | 5,908,237 | 199 (71) |

(2) 国内子会社

平成25年5月31日現在

| 会社名 | 所在地 | 設備の内容 | 帳簿価額 | | | | | | 従業員数 (人) |
|------------------|--------|-------|---------------------|---------------------------|----------------------|-------------------|-------------|------------|-------------|
| | | | 建物及び 構築物 (千円) | 機械装置 及び運搬 具 (千円) | 土地 (千円) (面積㎡) | リース資 産 (千円) | その他 (千円) | 合計 (千円) | |
| 株式会社ユー ホーニイタカ | 茨城県常総市 | 生産設備 | 25,561 | 3,558 | 52,353 (3,986.03) | 2,177 | 2,130 | 85,780 | 17 (13) |

(3) 在外子会社

平成25年5月31日現在

| 会社名 | 所在地 | 設備の内容 | 帳簿価額 | | | | | | 従業員数 (人) |
|--------------------|-----------|-------|---------------------|---------------------------|---------------------|-------------------|-------------|------------|-------------|
| | | | 建物及び 構築物 (千円) | 機械装置 及び運搬 具 (千円) | 土地 (千円) (面積㎡) | リース資 産 (千円) | その他 (千円) | 合計 (千円) | |
| 福建新拓高日用 化学品有限公司 | 中国 福建省 | 生産設備 | 144,299 | 19,098 | - (-) | 62,536 | 5,522 | 231,456 | 68 (4) |

(注) 1. 帳簿価額の内「その他」は、工具、器具及び備品等であり、建設仮勘定を含んでおります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数の()は臨時従業員数の外数であります。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、業界動向、設備効率等を総合的に勘案して決定しております。
当連結会計年度末現在における、重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

| 会社名 事業所名 | 所在地 | 設備の内容 | 投資予定額 (百万円) | | 資金調達 方法 | 着手及び 完了予定年月 | | 完成後の 増加能力 |
|---------------|-------------|----------------------|----------------|------|-------------------|----------------|---------|-----------------|
| | | | 総額 | 既支払額 | | 着手 | 完了 | |
| 提出会社 つくば工場 | 茨城県 龍ヶ崎市 | 第二工場棟及び 洗剤ボトル生産設備 | 812 | 690 | 自己資金 及び 借入金 | 平成24年12月 | 平成25年6月 | 洗剤ボトル 70万本/年 |
| 提出会社 つくば工場 | 茨城県 龍ヶ崎市 | 太陽光発電設備 | 77 | 25 | 自己資金 | 平成25年1月 | 平成26年3月 | 発電規模 194kW |

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 第二工場棟及び洗剤ボトル生産設備は、予定どおり計画が完了いたしました。
3. 太陽光発電設備は、当初平成25年6月に完了の予定でしたが、電力会社側の都合により、完了の時期を平成26年3月に変更いたしました。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 16,900,000 |
| 計 | 16,900,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 事業年度末現在発行数(株) (平成25年5月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成25年8月27日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|-------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|-----------|
| 普通株式 | 5,943,052 | 5,943,052 | 東京証券取引所 (市場第二部) | 単元株式数100株 |
| 計 | 5,943,052 | 5,943,052 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数 (株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額(千円) | 資本準備金残 高(千円) |
|-------------------|-----------------------|------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 平成17年1月20日 (注) | 540,277 | 5,943,052 | - | 585,199 | - | 595,337 |

(注) 株式1株を1.1株に株式分割

(6) 【所有者別状況】

平成25年5月31日現在

| 区分 | 株式の状況(1単元の株式数100株) | | | | | | | 単元未満株式の状況(株) | |
|-------------|--------------------|-------|----------|--------|-------|------|--------|--------------|--------|
| | 政府及び地方公共団体 | 金融機関 | 金融商品取引業者 | その他の法人 | 外国法人等 | | 個人その他 | | |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数(人) | - | 13 | 4 | 63 | 6 | 1 | 4,138 | 4,225 | - |
| 所有株式数(単元) | - | 6,464 | 6 | 21,685 | 138 | 1 | 30,968 | 59,262 | 16,852 |
| 所有株式数の割合(%) | - | 10.91 | 0.01 | 36.59 | 0.23 | 0.00 | 52.26 | 100.00 | - |

(注) 1. 自己株式38,885株は、「個人その他」に388単元及び「単元未満株式の状況」に85株を含めて記載しております。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年5月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数(千株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|----------------------|---------------------|-----------|------------------------|
| 株式会社ナイスエージェンシー | 大阪市淀川区新高一丁目8-10 | 1,175 | 19.78 |
| ニイタカ社員持株会 | 大阪市淀川区新高一丁目8-10 | 525 | 8.84 |
| 森田 千里雄 | 神戸市東灘区 | 177 | 2.97 |
| つくしの会持株会 | 大阪市淀川区新高一丁目8-10 | 154 | 2.60 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 東京都中央区晴海一丁目8-11 | 125 | 2.11 |
| ニイタカ会西日本持株会 | 大阪市淀川区新高一丁目8-10 | 120 | 2.03 |
| ニイタカ会東日本持株会 | 大阪市淀川区新高一丁目8-10 | 117 | 1.98 |
| 株式会社商工組合中央金庫 | 東京都中央区八重洲二丁目10-17 | 115 | 1.94 |
| 阪本薬品工業株式会社 | 大阪府中央区淡路町一丁目2-6 | 110 | 1.86 |
| 大日製罐株式会社 | 埼玉県鴻巣市箕田字吉右工門3132番地 | 110 | 1.86 |
| 計 | - | 2,735 | 46.02 |

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式は、信託業務に係るものであります。

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成25年5月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|----------------|----------|-----------|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 38,800 | - | 単元株式数100株 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 5,887,400 | 58,874 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 16,852 | - | - |
| 発行済株式総数 | 5,943,052 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 58,874 | - |

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年5月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|------------|-----------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| 株式会社ニイタカ | 大阪市淀川区新高一丁目8-10 | 38,800 | - | 38,800 | 0.65 |
| 計 | - | 38,800 | - | 38,800 | 0.65 |

(9) 【ストックオプション制度の内容】
該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(円) |
|-----------------|--------|----------|
| 当事業年度における取得自己株式 | 260 | 246,520 |
| 当期間における取得自己株式 | - | - |

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分 | 当事業年度 | | 当期間 | |
|-----------------------------|--------|------------|--------|------------|
| | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) |
| 引き受ける者の募集を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| 消却の処分を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| 合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| その他 (-) | - | - | - | - |
| 保有自己株式数 | 38,885 | - | 38,885 | - |

(注) 有価証券報告書提出日現在の保有自己株式数には、平成25年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り又は売渡しによる株式数は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は利益配分につきましては、将来の企業価値を高める事業戦略に必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

内部留保金は、さらなる業容拡大に向けた生産関連設備投資や、新規事業開拓等に活用したいと考えております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当をおこなうことを基本方針としております。

当社は、「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める。」旨定款に定めております。

なお、当事業年度は期末の配当金を1株当たり11円（普通配当金9円、記念配当金2円）とし、中間配当9円と合わせ通期で1株当たり20円（普通配当金18円、記念配当金2円）の配当を決定いたしました。

（注）基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、次のとおりであります。

| 決議年月日 | 配当金の総額（千円） | 1株当たり配当額（円） |
|--------------------|------------|-------------|
| 平成24年12月27日 取締役会決議 | 53,138 | 9.0 |
| 平成25年7月26日 取締役会決議 | 64,945 | 11.0 |

4【株価の推移】

（1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

| 回次 | 第47期 | 第48期 | 第49期 | 第50期 | 第51期 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 決算年月 | 平成21年5月 | 平成22年5月 | 平成23年5月 | 平成24年5月 | 平成25年5月 |
| 最高（円） | 900 | 1,090 | 972 | 991 | 1,100 |
| 最低（円） | 546 | 760 | 756 | 840 | 872 |

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

（2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

| 月別 | 平成24年12月 | 平成25年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
|-------|----------|---------|-----|-------|-------|-------|
| 最高（円） | 921 | 936 | 950 | 1,052 | 1,076 | 1,100 |
| 最低（円） | 891 | 906 | 919 | 940 | 1,020 | 971 |

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5【役員の状況】

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|------------------|-----------------|--------|-------------|---|----|---------------|
| 取締役会長 (代表取締役) | | 森田 千里雄 | 昭和19年9月5日生 | 昭和43年7月 当社入社 昭和53年10月 取締役就任 技術部長 平成4年7月 専務取締役就任 平成13年6月 取締役副社長就任 平成16年8月 代表取締役社長就任 平成17年7月 株式会社ナイスエージェンシー 代表取締役就任(現任) 平成23年4月 株式会社ユーホーニイタカ 代表取締役就任 平成25年6月 代表取締役会長就任(現任) | 注3 | 177 |
| 取締役社長 (代表取締役) | マーケティング 部担当 | 奥山 吉昭 | 昭和33年6月14日生 | 昭和57年4月 当社入社 平成8年7月 取締役就任 総務部長 平成9年5月 総務部長兼経営企画部長 平成10年5月 経営企画部長 平成12年12月 経営企画室長 平成13年8月 常務取締役就任 平成18年6月 経営企画部長 平成19年9月 福建新拓高日用化学品有限公司 董事長就任(現任) 平成21年2月 福建新拓高日用化学品有限公司 總經理就任 平成22年8月 専務取締役就任 平成23年4月 株式会社ユーホーニイタカ 取締役就任 平成23年8月 取締役副社長就任 平成24年6月 マーケティング部・品質保証室担当 平成25年5月 株式会社ユーホーニイタカ 取締役会長就任(現任) 平成25年6月 代表取締役社長就任(現任) 平成25年8月 マーケティング部担当(現任) | 注3 | 63 |
| 常務取締役 | 技術部・品質 保証室担当 | 相川 保史 | 昭和32年6月27日生 | 昭和59年3月 当社入社 平成15年6月 技術部長 平成15年8月 取締役就任 平成17年6月 技術製造本部長 平成21年6月 福建新拓高日用化学品有限公司 董事就任(現任) 平成21年12月 技術部長 平成22年6月 企画開発部長 平成23年8月 常務取締役就任(現任) 平成24年1月 株式会社ユーホーニイタカ 取締役就任 平成24年6月 技術部担当兼製造本部長 平成25年5月 株式会社ユーホーニイタカ 代表取締役社長就任(現任) 平成25年8月 技術部・品質保証室担当(現任) | 注3 | 15 |
| 常務取締役 | 営業本部長 | 笠井 司 | 昭和23年2月11日生 | 平成12年10月 当社入社 平成13年8月 監査役就任 平成15年8月 取締役就任 管理部長兼購買部長 平成15年12月 管理部長 平成22年6月 管理本部長 平成24年6月 営業本部長(現任) 平成25年8月 常務取締役就任(現任) | 注3 | 8 |
| 取締役 | 管理本部長・ 総務部長 | 佐古 晴彦 | 昭和33年5月17日生 | 昭和59年3月 当社入社 平成16年12月 営業管理部長 平成17年8月 執行役員就任 平成19年12月 経営企画部長 平成23年6月 管理部長 平成23年8月 取締役就任(現任) 管理本部副本部長 平成24年6月 管理本部長兼総務部長(現任) | 注3 | 2 |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-------------|------------------|--------|-------------|--|----|---------------|
| 取締役 | 営業本部副本部長・東日本営業部長 | 吉田 典広 | 昭和33年5月30日生 | 平成20年11月 当社入社 平成21年6月 本社営業部長 平成21年11月 執行役員就任 平成22年6月 営業本部副本部長(現任) 平成23年8月 取締役就任(現任) 平成24年6月 西日本営業部長 平成25年8月 東日本営業部長(現任) | 注3 | 1 |
| 監査役 (常勤) | | 新森 英利 | 昭和25年3月19日生 | 昭和57年1月 当社入社 平成12年12月 内部監査室長 平成15年6月 監査室長 平成19年8月 監査役就任(現任) | 注4 | 23 |
| 監査役 | | 新美 治一 | 昭和13年5月15日生 | 昭和57年4月 福島大学経済学部教授 昭和62年10月 福島大学行政社会学部教授 平成元年10月 福島大学行政社会学部長 平成11年4月 名古屋経済大学法学部教授 平成12年4月 名古屋経済大学大学院法学研究科教授 平成12年5月 名古屋経済大学法学部長 平成18年8月 当社監査役就任(現任) 平成19年9月 福建新拓高日用化学品有限公司監事就任 | 注4 | 3 |
| 監査役 | | 竹村 聡 | 昭和44年3月13日生 | 平成4年4月 監査法人伊東会計事務所入所 平成10年7月 ベガサス監査法人入所 平成14年7月 公認会計士 竹村聡事務所代表(現任) 平成19年8月 当社監査役就任(現任) 平成23年4月 株式会社ユーホーニイタカ 監査役就任 平成25年8月 福建新拓高日用化学品有限公司監事就任(現任) | 注4 | 4 |
| 監査役 | | 池崎 英一郎 | 昭和22年9月14日生 | 昭和46年4月 アナログ・デバイス株式会社入社 昭和62年7月 サン・マイクロシステムズ株式会社 入社人事本部長 平成3年4月 コンパックコンピュータ株式会社 入社人事本部長 平成7年10月 株式会社ステーション・ガイア入社 専務取締役就任 平成9年2月 株式会社コンチェルト社を創立 代表取締役社長就任 平成22年12月 ユーホーケミカル株式会社入社 代表取締役社長就任 平成25年8月 当社監査役就任(現任) 平成25年8月 株式会社ユーホーニイタカ 監査役就任(現任) | 注4 | - |
| 計 | | | | | | 301 |

- (注) 1. 監査役 新美治一、竹村聡、池崎英一郎は、社外監査役であります。
2. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。
3. 取締役の任期は、平成25年5月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年5月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、新美治一が平成22年5月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年5月期に係る定時株主総会終結の時まで、新森英利、竹村聡が平成23年5月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年5月期に係る定時株主総会終結の時まで、池崎英一郎が平成25年5月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年5月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

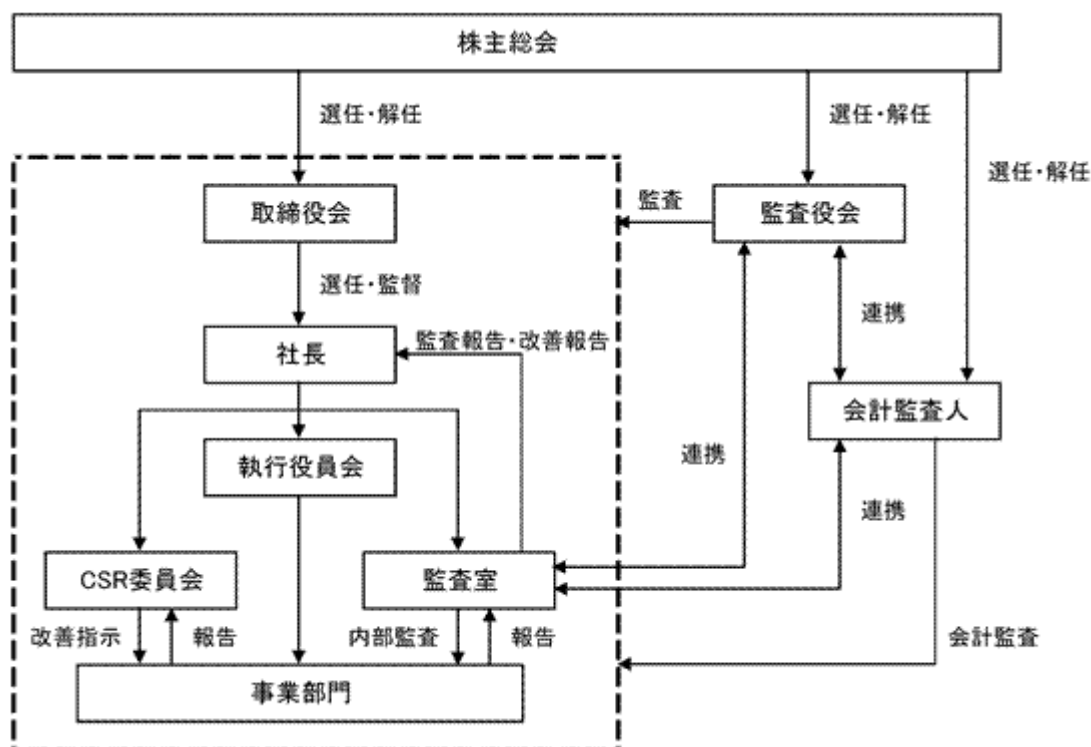
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社の経営理念は、四者共栄であります。当社は、高品質・高使用価値の製品・サービスをフードビジネス業界に提供することを通じ、「取引先とユーザー」のお役に立ち、「株主と会社」に利益をもたらし、「社員とその家族」を幸せにすると同時に、「地域社会」に貢献することで企業の社会的責任を果たすことを経営の根幹としております。この経営理念が、当社の企業倫理の基本的な考え方であり、コーポレート・ガバナンスを支える基礎になっております。

当社は、コーポレート・ガバナンスの強化・充実を経営上の最重要課題の一つと位置付け、経営の効率性、健全性及び透明性を確保し、社会から信頼される企業を目指します。

企業統治の体制の概要等

当社における企業統治の体制は次のとおりであります。



イ. 企業統治の概要

当社の取締役会は、本有価証券報告書提出日（平成25年8月27日）現在、社内取締役6名で構成されております。なお、当社は社外取締役を選任しておりません。月1回開催される定時取締役会では、経営方針、事業計画、組織及び財務状況等の施策に関する重要な事項を決定するとともに当社並びに子会社の業務執行状況の確認、監督を行っております。また、平成17年8月から執行役員制度を導入し、取締役、監査役も出席した定時執行役員会を月1回開催し、業務上の重要事項を協議決定し、業務執行しております。さらに部門別の執行役員会においては、各部門の課題を審議・具体化し、迅速な意思決定を行っております。

ロ. 現状の体制を採用している理由

当社は、上記の経営執行の体制に対して、監査役による経営監視機能、後述の内部統制システムによる牽制機能が働くことで、適切なコーポレート・ガバナンスの実現が可能と考え、当体制を採用しております。

八. 内部統制システムの整備の状況

当社は、内部統制システム構築の基本方針に関し、取締役会において次のとおり決議しており（当初決議日：平成18年5月15日、直近の改訂決議日：平成20年5月14日）、この方針に従って業務の適正を確保する体制の確立を図っております。

- ・取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制並びに損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、コンプライアンス及びリスク管理を統括する組織として「CSR委員会」を設置する。コンプライアンスの推進については、「倫理方針」「倫理規程」に基づき、取締役・使用人がコンプライアンスを自らの問題としてとらえ業務執行にあたるよう研修等を通じて指導する。また、「内部通報制度規程」に基づき、取締役・使用人が社内の不正行為、違法行為及び犯罪的行為等を通報し、会社はそれに対し適切な対応をとる。その際会社は、通報内容を守秘し、通報者に対して不利益な扱いを行わない。

リスク管理の推進については、「リスク管理方針」「リスク管理規程」に基づき、各部門が有するリスクの把握、分析、評価を行い、適切な対策を実施する。

- ・取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、重要な決定事項について原則として毎月1回開催する定時取締役会において決定するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催することにより迅速な決定を行う。

業務の運営については、将来の事業環境を踏まえ中期経営計画を立案し、各年度予算・全社目標を設定する。各部門においては、その目標に向け具体策を立案し、実行する。

- ・取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、法令及び社内規程に基づき、「株主総会議事録」「取締役会議事録」等の取締役の職務の執行に係る文書等の保存及び管理を行う。また、取締役及び監査役は、必要に応じてこれらの文書等を閲覧できるものとする。

- ・当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は「関係会社管理規程」に基づき、子会社に対する適切な経営管理を行う。また、当社監査役が子会社の監査役に就任し監査を実施するとともに、「内部統制監査規程」に基づき、監査室が必要に応じて監査を実施する。

- ・監査役を補助すべき使用人に関する体制

現在、監査役を補助すべき使用人はいないが、必要に応じて、監査役の業務補助のため監査役スタッフを置くこととし、その人事については、取締役と監査役が意見交換を行う。

- ・取締役・使用人が監査役に報告をするための体制

常勤監査役は、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため取締役会、執行役員会等の重要な会議に出席する。代表取締役、業務執行を担当する取締役・使用人は、それらの会議において随時その担当する業務の執行状況の報告を行う。また、取締役・使用人は、会社に重大な損失を与える事項が発生し又は発生する恐れがあるとき、取締役・使用人による違法又は不正な行為を発見したときは、速やかに監査役に報告する。

- ・その他監査役による監査が実効的に行われることを確保するための体制

取締役・使用人の監査役監査に対する理解を深め、監査役監査の環境を整備するように努める。

取締役との定期的な意見交換を実施し、適切な意思疎通及び効果的な監査業務の遂行を図る。また常勤監査役は、主要な稟議書等の重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役・使用人にその説明を求めることとする。なお、監査役は、当社の会計監査人であるペガサス監査法人から会計監査内容について説明を受けるとともに、情報の交換を行うなど連携を図っていく。

内部監査及び監査役監査の状況

イ．内部監査、監査役監査の組織、人員及び手続き

・内部監査

監査室は社長直轄組織として、他の管理部門、業務部門から独立した形で設置されております。監査室は、内部統制監査規程に基づき、業務活動全般における合理性や効率性及び法令や社内規程の遵守状況並びに内部統制システムやリスク管理体制をチェックしております。この監査結果を踏まえ、監査室長は、社長に監査報告を行い、監査対象組織に対して指摘事項への回答、その他問題点の是正を求め、是正状況を確認しております。また、監査室は、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制監査を実施しております。なお、当社会計監査人であるペガサス監査法人とは必要に応じて、情報交換を行い、指導・助言を受け体制をとっております。

・監査役監査

監査役は、常勤監査役1名、非常勤監査役3名の4名であり、非常勤監査役は全員社外監査役であります。社外監査役には財務及び会計に関する相当程度の知見を有する監査役が含まれております。監査役会は毎月開催し、取締役会の議題についての事前審査、各監査役の活動状況・活動結果の共有、意見交換を行っております。各監査役は、取締役、監査室その他使用人等と意思疎通を図り、情報の収集に努めるとともに、取締役会、執行役員会に出席しております。会計監査人とは定期的に会合を持ち、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ適正な監査を実施していることの確認を含めた意見交換、質疑応答を実施しております。

ロ．社外監査役による監査と監査役監査及び会計監査と内部統制部門との関係

上記イ．に記載のとおりであります。

社外取締役及び社外監査役

イ．社外取締役との関係

当社は社外取締役を選任しておりません。

ロ．社外監査役との関係

社外監査役である3名は、有価証券報告書提出日現在、当社との間に次のとおりの資本関係があります。

| 社外監査役の氏名 | 所有する当社株式の数 |
|----------|------------|
| | 普通株式 |
| 新美 治一 | 3,800株 |
| 竹村 聡 | 4,100株 |
| 池崎 英一郎 | - 株 |

上記以外に社外監査役と当社との間に特別な利害関係はありません。

八．社外監査役が企業統治において果たす機能・役割及び独立性に関する考え方

各社外監査役は法令、財務会計、税務、経営等に関して専門的な知見を有しており、次のとおり社外の立場から経営に助言を行うとともに、職歴、経験、知識を活かして経営の適法性についての監視をしております。

・新美治一氏

同氏は、福島大学行政社会学部及び名古屋経済大学法学部にて教授、学部長を歴任しております。法律に関する知見が高く、コンプライアンスをはじめ業務執行に係るさまざまな視点から忌憚のない意見と助言を提供しております。なお、同氏は、独立役員として東京証券取引所に届出しております。

・竹村聡氏

同氏は、公認会計士の資格を有しており、公認会計士竹村聡事務所の代表を務めております。同氏は、その知見から当社の財務及び会計に関して経理部門をはじめ監査室等との意思疎通を十分に行い、貴重な意見と有用な助言を提供しております。また、竹村聡氏は、当社の監査法人であるペガサス監査法人に平成14年7月末日まで雇用契約に基づき勤務しており、その後平成15年12月末日まで会計監査の補助として一部業務に携わっていましたが、その間当社と竹村聡氏個人との間には直接の取引関係は一切発生しておりません。なお、同氏は、独立役員として東京証券取引所に届出しております。

・池崎英一郎氏

同氏は、複数の会社で人事本部長を経験しており、人事勤労関係の専門知識を有しております。同氏は、企業経営の経験や、コンサルティング業務を担った経験を有するなど、監査業務を適切に遂行いただけるものと判断し、平成25年8月23日開催の株主総会で監査役に選任いたしました。なお、同氏は、独立役員として東京証券取引所に届出しております。

当社では社外監査役を選任するための独立性に関する基準及び方針を定めておりませんが、東京証券取引所の定める独立役員の資格を充たしており、一般株主と利益相反の生じるおそれのない者を社外監査役として指定しております。

二．社外役員の選任状況に関する考え方

当社は社外取締役を選任しておりません。社外取締役の客観的見地からの取締役会の業務執行に対する監視機能が有効であることは認識しておりますが、監査役4名中3名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。監査役には株主からの付託を受けた実効性のある経営監視が期待されており、かつ客観性、中立性の確保が求められています。そのため、法令、財務会計、税務、経営全般に関する専門的な知見を有する外部の有識者を選任しております。

役員報酬の内容

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

| 役員区分 | 報酬等の総額 (千円) | 報酬等の種類別の総額(千円) | | 対象となる 役員の員数 (名) |
|-------------------|----------------|----------------|--------|-----------------------|
| | | 基本報酬 | 退職慰労金 | |
| 取締役 | 132,473 | 114,234 | 18,239 | 7 |
| 監査役 (社外監査役を除く) | 13,808 | 12,381 | 1,427 | 1 |
| 社外役員 | 11,398 | 10,515 | 883 | 3 |

ロ．提出会社の役員ごとの報酬等の総額

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

八．役員の報酬等の額の決定に関する方針

株主総会の決議により決定した年間報酬総額の限度内で、経営環境、業績、社員給与との整合性等を考慮して、取締役の報酬については取締役会の付託により、役位、就任年数を勘案して社長がこれを決定し、監査役の報酬については、監査役の協議により決定しております。

会計監査の状況

当社は、会計監査人であるペガサス監査法人と監査契約を締結し、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査を受けております。

当事業年度において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については次のとおりであります。

- ・業務を執行した公認会計士の氏名
指定社員 業務執行社員：安原 誠吾、松山 治幸
- ・監査業務に係る補助者の構成
公認会計士 5名、会計士補等 1名

株式の保有状況

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 11銘柄
貸借対照表計上額の合計額 191,195千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度
特定投資株式

| 銘柄 | 株式数(株) | 貸借対照表計上額 (千円) | 保有目的 |
|-------------------|--------|------------------|---------------|
| 尾家産業(株) | 25,280 | 19,617 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)ヤマナカ | 24,300 | 17,982 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)マツヤ | 26,000 | 15,626 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)サトー商会 | 12,900 | 10,423 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)ヴィア・ホールディングス | 10,600 | 8,755 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)ファルコSDホールディングス | 7,540 | 7,185 | 取引関係の維持・強化のため |
| ジーエフシー(株) | 7,800 | 7,004 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)みずほフィナンシャルグループ | 40,000 | 4,600 | 取引関係の維持・強化のため |

当事業年度
特定投資株式

| 銘柄 | 株式数(株) | 貸借対照表計上額 (千円) | 保有目的 |
|-------------------|--------|------------------|---------------|
| 尾家産業(株) | 25,280 | 20,299 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)ヤマナカ | 24,300 | 17,544 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)マツヤ | 26,000 | 13,312 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)サトー商会 | 12,900 | 11,661 | 取引関係の維持・強化のため |
| テイカ(株) | 40,000 | 11,520 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)ファルコSDホールディングス | 7,540 | 10,194 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)ヴィア・ホールディングス | 10,600 | 9,010 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)みずほフィナンシャルグループ | 40,000 | 7,800 | 取引関係の維持・強化のため |
| ジーエフシー(株) | 7,800 | 7,573 | 取引関係の維持・強化のため |

(注) 1株未満の株式数は切り捨てて表示しております。

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

定款における取締役の定数や資格制限等

当社の取締役は8名以内とする旨定款に定めております。

また、取締役の選任議案にあたっては、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらない旨を定款に定めております。

自己の株式取得の決議要件

当社は、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

責任限定契約の内容の概要

当社と各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外監査役が責任原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

| 区分 | 前連結会計年度 | | 当連結会計年度 | |
|-------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|
| | 監査証明業務に基づく報酬(百万円) | 非監査業務に基づく報酬(百万円) | 監査証明業務に基づく報酬(百万円) | 非監査業務に基づく報酬(百万円) |
| 提出会社 | 19 | - | 18 | - |
| 連結子会社 | - | - | - | - |
| 計 | 19 | - | 18 | - |

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査証明業務に要する監査時間数を勘案して決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年6月1日から平成25年5月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成24年6月1日から平成25年5月31日まで)の財務諸表について、ペガサス監査法人の監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また会計基準の変更等にも的確に対応できる体制を確保するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへの参加等を通じて適宜情報収集を行っております。

1【連結財務諸表等】
 (1)【連結財務諸表】
 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 993,126 | 1,167,479 |
| 受取手形及び売掛金 | 2,676,137 | 2,814,790 |
| 商品及び製品 | 572,322 | 557,368 |
| 仕掛品 | 42,792 | 55,775 |
| 原材料及び貯蔵品 | 358,157 | 301,369 |
| 繰延税金資産 | 119,975 | 102,521 |
| その他 | 55,340 | 70,805 |
| 貸倒引当金 | 3,665 | 4,098 |
| 流動資産合計 | 4,814,187 | 5,066,011 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 1 5,678,653 | 1 5,772,781 |
| 減価償却累計額 | 3,052,844 | 3,248,511 |
| 建物及び構築物(純額) | 2,625,809 | 2,524,269 |
| 機械装置及び運搬具 | 1 5,424,746 | 1 5,462,766 |
| 減価償却累計額 | 4,893,099 | 5,063,054 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 531,647 | 399,712 |
| 工具、器具及び備品 | 1 589,344 | 1 689,811 |
| 減価償却累計額 | 518,511 | 574,061 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 70,833 | 115,750 |
| 土地 | 1 2,034,341 | 1 2,345,120 |
| リース資産 | 1,202,935 | 1,126,587 |
| 減価償却累計額 | 643,858 | 719,031 |
| リース資産(純額) | 559,076 | 407,556 |
| 建設仮勘定 | 925 | 431,555 |
| その他 | 1,509 | 1,509 |
| 有形固定資産合計 | 5,824,142 | 6,225,474 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 106,413 | 72,161 |
| のれん | 20,498 | 18,220 |
| その他 | 52,973 | 63,500 |
| 無形固定資産合計 | 179,885 | 153,883 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 307,029 | 346,062 |
| 従業員に対する長期貸付金 | 9,976 | 8,927 |
| 繰延税金資産 | 386,918 | 368,782 |
| その他 | 311,290 | 411,513 |
| 貸倒引当金 | 7,017 | 4,938 |
| 投資その他の資産合計 | 1,008,198 | 1,130,347 |
| 固定資産合計 | 7,012,226 | 7,509,705 |
| 資産合計 | 11,826,413 | 12,575,716 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 1,010,771 | 1,019,236 |
| ファクタリング債務 | 1,277,606 | 1,281,560 |
| 短期借入金 | 1 650,000 | 1 600,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1 309,500 | 1 158,444 |
| リース債務 | 161,867 | 141,363 |
| 未払法人税等 | 133,600 | 125,400 |
| その他 | 663,445 | 906,154 |
| 流動負債合計 | 4,206,791 | 4,232,159 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | - | 1 568,482 |
| リース債務 | 229,662 | 96,413 |
| 退職給付引当金 | 885,640 | 802,801 |
| 役員退職慰労引当金 | 205,558 | 215,290 |
| その他 | 20,448 | 23,404 |
| 固定負債合計 | 1,341,309 | 1,706,391 |
| 負債合計 | 5,548,101 | 5,938,551 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 585,199 | 585,199 |
| 資本剰余金 | 595,337 | 595,337 |
| 利益剰余金 | 5,207,981 | 5,510,214 |
| 自己株式 | 49,900 | 50,146 |
| 株主資本合計 | 6,338,618 | 6,640,604 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 33,006 | 13,607 |
| 為替換算調整勘定 | 27,299 | 10,167 |
| その他の包括利益累計額合計 | 60,305 | 3,439 |
| 純資産合計 | 6,278,312 | 6,637,164 |
| 負債純資産合計 | 11,826,413 | 12,575,716 |

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) |
|----------------|--|--|
| 売上高 | 12,238,071 | 12,819,696 |
| 売上原価 | 7,450,278 | 7,690,730 |
| 売上総利益 | 4,787,792 | 5,128,966 |
| 販売費及び一般管理費 | 2, 3 4,292,402 | 2, 3 4,475,020 |
| 営業利益 | 495,390 | 653,945 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 413 | 3,371 |
| 受取配当金 | 7,042 | 11,635 |
| 受取手数料 | 6,238 | 4,002 |
| 助成金収入 | 345 | 638 |
| 為替差益 | 2,492 | 9,738 |
| 消費税差額 | 3,338 | 9,004 |
| その他 | 6,334 | 13,422 |
| 営業外収益合計 | 26,206 | 51,814 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 14,778 | 14,541 |
| 投資事業組合運用損 | 2,445 | 535 |
| 開業費償却 | 8,223 | - |
| 貸倒引当金繰入額 | 5,757 | 1,553 |
| 創立50周年関連費用 | - | 20,952 |
| その他 | 1,484 | 79 |
| 営業外費用合計 | 32,689 | 37,661 |
| 経常利益 | 488,906 | 668,098 |
| 特別利益 | | |
| 負ののれん発生益 | 19,014 | - |
| 保険解約返戻金 | - | 4,820 |
| その他 | - | 178 |
| 特別利益合計 | 19,014 | 4,998 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 1 645 | 1 641 |
| たな卸資産廃棄損 | 13,932 | 10,478 |
| その他 | - | 685 |
| 特別損失合計 | 14,578 | 11,805 |
| 税金等調整前当期純利益 | 493,342 | 661,291 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 222,061 | 228,101 |
| 法人税等調整額 | 39,471 | 24,678 |
| 法人税等合計 | 261,532 | 252,780 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 231,810 | 408,511 |
| 当期純利益 | 231,810 | 408,511 |

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|----------------|---|---|
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 231,810 | 408,511 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 8,482 | 19,399 |
| 為替換算調整勘定 | 4,916 | 37,466 |
| その他の包括利益合計 | <u>1</u> 3,566 | <u>1</u> 56,866 |
| 包括利益 | 228,243 | 465,377 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 228,243 | 465,377 |
| 少数株主に係る包括利益 | - | - |

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|---------------|---|---|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 当期首残高 | 585,199 | 585,199 |
| 当期末残高 | 585,199 | 585,199 |
| 資本剰余金 | | |
| 当期首残高 | 595,337 | 595,337 |
| 当期末残高 | 595,337 | 595,337 |
| 利益剰余金 | | |
| 当期首残高 | 5,082,452 | 5,207,981 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 106,281 | 106,278 |
| 当期純利益 | 231,810 | 408,511 |
| 当期変動額合計 | 125,529 | 302,232 |
| 当期末残高 | 5,207,981 | 5,510,214 |
| 自己株式 | | |
| 当期首残高 | 49,817 | 49,900 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の取得 | 82 | 246 |
| 当期変動額合計 | 82 | 246 |
| 当期末残高 | 49,900 | 50,146 |
| 株主資本合計 | | |
| 当期首残高 | 6,213,171 | 6,338,618 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 106,281 | 106,278 |
| 当期純利益 | 231,810 | 408,511 |
| 自己株式の取得 | 82 | 246 |
| 当期変動額合計 | 125,446 | 301,986 |
| 当期末残高 | 6,338,618 | 6,640,604 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|----------------------|---|---|
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期首残高 | 24,523 | 33,006 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 8,482 | 19,399 |
| 当期変動額合計 | 8,482 | 19,399 |
| 当期末残高 | 33,006 | 13,607 |
| 為替換算調整勘定 | | |
| 当期首残高 | 32,215 | 27,299 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 4,916 | 37,466 |
| 当期変動額合計 | 4,916 | 37,466 |
| 当期末残高 | 27,299 | 10,167 |
| その他の包括利益累計額合計 | | |
| 当期首残高 | 56,739 | 60,305 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 3,566 | 56,866 |
| 当期変動額合計 | 3,566 | 56,866 |
| 当期末残高 | 60,305 | 3,439 |
| 純資産合計 | | |
| 当期首残高 | 6,156,432 | 6,278,312 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 106,281 | 106,278 |
| 当期純利益 | 231,810 | 408,511 |
| 自己株式の取得 | 82 | 246 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 3,566 | 56,866 |
| 当期変動額合計 | 121,879 | 358,852 |
| 当期末残高 | 6,278,312 | 6,637,164 |

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 493,342 | 661,291 |
| 減価償却費 | 723,752 | 649,850 |
| 退職給付引当金の増減額 (は減少) | 40,438 | 82,838 |
| 役員退職慰労引当金の増減額 (は減少) | 31,493 | 9,732 |
| 長期前払費用の増減額 (は増加) | 17,786 | 4,867 |
| 負ののれん発生益 | 19,014 | - |
| 受取利息及び受取配当金 | 7,456 | 15,007 |
| 支払利息 | 14,778 | 14,541 |
| 有形固定資産除売却損益 (は益) | 645 | 641 |
| 為替差損益 (は益) | 2,492 | 9,738 |
| 売上債権の増減額 (は増加) | 299,556 | 138,652 |
| たな卸資産の増減額 (は増加) | 23,917 | 55,031 |
| その他の流動資産の増減額 (は増加) | 12,602 | 8,531 |
| 仕入債務の増減額 (は減少) | 4,965 | 11,079 |
| 未払金及び未払費用の増減額 (は減少) | 39,105 | 193,433 |
| 未払消費税等の増減額 (は減少) | 14,016 | 11,473 |
| その他 | 4,724 | 7,881 |
| 小計 | 1,002,723 | 1,342,109 |
| 利息及び配当金の受取額 | 7,456 | 10,515 |
| 利息の支払額 | 14,778 | 14,541 |
| 法人税等の還付額 | 33,584 | - |
| 法人税等の支払額 | 104,169 | 248,967 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 924,816 | 1,089,115 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | - | 100,000 |
| 事業譲受による支出 | 2 111,432 | - |
| 有形固定資産の取得による支出 | 418,879 | 887,844 |
| 無形固定資産の取得による支出 | 14,159 | 17,197 |
| 投資有価証券の取得による支出 | - | 47,253 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 1,788 | 37,487 |
| その他 | 16,134 | 1,194 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 558,817 | 1,016,001 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (は減少) | 300,000 | 50,000 |
| 長期借入れによる収入 | - | 750,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | 381,320 | 332,574 |
| 配当金の支払額 | 106,281 | 106,278 |
| リース債務の返済による支出 | 181,303 | 176,854 |
| その他 | 82 | 246 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 368,987 | 84,046 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 4,255 | 17,192 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (は減少) | 1,267 | 174,353 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 986,859 | 993,126 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 5,000 | - |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1 993,126 | 1 1,167,479 |

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

子会社はすべて連結されております。

連結子会社は、次のとおりであります。

福建新拓高日用化学品有限公司

株式会社ユーホーニイタカ

2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

(1) 連結子会社である福建新拓高日用化学品有限公司の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたり、3月31日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(2) 連結子会社である株式会社ユーホーニイタカの決算日は3月31日であります。連結財務諸表の作成にあたり、同決算日現在の財務諸表を使用しております。なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

3. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業組合等への出資持分(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

デリバティブ

時価法

たな卸資産

製品及び商品・原材料及び貯蔵品・仕掛品

主として、総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

主として、定率法を採用しております。

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物及び構築物 7年～50年

機械装置及び運搬具 2年～8年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づいております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

会計基準変更時差異、過去勤務債務並びに数理計算上の差異は、発生時に一括して費用処理することとしております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 重要なヘッジ会計の方法

重要なヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 ... 金利スワップ

ヘッジ対象 ... 借入金

ヘッジ方針

ヘッジ対象に係る金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

ヘッジの有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、投資効果の発現すると見積もられる期間で均等償却を行います。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年6月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益それぞれに与える影響額は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

1. 概要

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、連結貸借対照表の純資産の部において税効果を調整した上で認識し、積み立て状況を示す額を負債又は資産として計上する方法に改正されました。

また、退職給付見込額の期間帰属方法について、期間定額基準のほか給付算定式基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されました。

2. 適用予定日

平成26年5月期の年度末に係る連結財務諸表から適用致します。ただし、退職給付見込額の期間帰属方法の改正については、平成27年5月期の期首から適用致します。なお、当該会計基準等には経過的な取り扱いが定められているため、過去の期間の財務諸表に対しては遡及適用致しません。

3. 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において連結財務諸表に与える影響は、現在評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示していた「投資有価証券の売却による収入」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しており、この表示方法の変更に伴い、前連結会計年度の連結財務諸表の組替を行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に表示していた 14,345千円は、「投資有価証券の売却による収入」1,788千円、「その他」 16,134千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。

工場財団担保資産

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|-----------|-------------------------|-------------------------|
| 建物及び構築物 | 888,667千円 | 865,899千円 |
| 機械装置及び運搬具 | 194,933 | 152,068 |
| 工具、器具及び備品 | 21,625 | 23,690 |
| 土地 | 800,381 | 800,381 |
| 合計 | 1,905,607 | 1,842,040 |

上記に対する債務

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|-----------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 短期借入金 | 650,000千円 | 600,000千円 |
| 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む) | 284,500 | 626,926 |
| 合計 | 934,500 | 1,226,926 |

2. 当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行9行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|---------|-------------------------|-------------------------|
| 当座貸越極度額 | 2,600百万円 | 2,600百万円 |
| 借入実行残高 | 650 | 600 |
| 差引額 | 1,950 | 2,000 |

3. 偶発債務

当社は、債権管理事務のアウトソースを目的として、食器洗浄機に係るレンタル債権の一部をリース会社に売却いたしました。当該債権に関する買戻義務を有しております。

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------|
| 買戻義務 | 3,014千円 | 440千円 |

(連結損益計算書関係)

1. 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

(1) 固定資産除却損

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|-----------|---|---|
| 建物 | - 千円 | 23千円 |
| 機械装置及び運搬具 | 240 | 287 |
| 工具、器具及び備品 | 404 | 80 |
| 合計 | 645 | 390 |

(2) 固定資産売却損

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|-----------|---|---|
| 工具、器具及び備品 | - 千円 | 251千円 |

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|--------------|---|---|
| 従業員給与及び賞与 | 956,362千円 | 1,063,623千円 |
| 退職給付費用 | 42,177 | 60,281 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 31,493 | 20,549 |
| 運賃 | 833,338 | 864,372 |
| 外注費 | 416,271 | 425,539 |

3. 研究開発費の総額

一般管理費に含まれる研究開発費

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|--|---|---|
| | 334,846千円 | 296,604千円 |

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整及び税効果額

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|---------------|---|---|
| その他有価証券評価差額金： | | |
| 当期発生額 | 10,006千円 | 37,474千円 |
| 組替調整額 | - | 7,162 |
| 税効果調整前 | 10,006 | 30,311 |
| 税効果額 | 1,524 | 10,912 |
| その他有価証券評価差額金 | 8,482 | 19,399 |
| 為替換算調整勘定： | | |
| 当期発生額 | 3,837 | 37,466 |
| 組替調整額 | 1,078 | - |
| 税効果調整前 | 4,916 | 37,466 |
| 税効果額 | - | - |
| 為替換算調整勘定 | 4,916 | 37,466 |
| その他の包括利益合計 | 3,566 | 56,866 |

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年6月1日 至平成24年5月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当連結会計年度期首 株式数(株) | 当連結会計年度増加 株式数(株) | 当連結会計年度減少 株式数(株) | 当連結会計年度末株 式数(株) |
|---------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 5,943,052 | - | - | 5,943,052 |
| 合計 | 5,943,052 | - | - | 5,943,052 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式(注) | 38,538 | 87 | - | 38,625 |
| 合計 | 38,538 | 87 | - | 38,625 |

(注) 自己株式の増加87株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の 総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|--------------------|-------|--------------------|---------------------|-------------|------------|
| 平成23年7月25日 取締役会 | 普通株式 | 53,140 | 9.00 | 平成23年5月31日 | 平成23年8月29日 |
| 平成24年1月16日 取締役会 | 普通株式 | 53,140 | 9.00 | 平成23年11月30日 | 平成24年2月13日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の 総額 (千円) | 配当の原資 | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|--------------------|-------|--------------------|-------|---------------------|------------|------------|
| 平成24年7月25日 取締役会 | 普通株式 | 53,139 | 利益剰余金 | 9.00 | 平成24年5月31日 | 平成24年8月27日 |

当連結会計年度(自平成24年6月1日 至平成25年5月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当連結会計年度期首 株式数(株) | 当連結会計年度増加 株式数(株) | 当連結会計年度減少 株式数(株) | 当連結会計年度末株 式数(株) |
|---------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 5,943,052 | - | - | 5,943,052 |
| 合計 | 5,943,052 | - | - | 5,943,052 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式(注) | 38,625 | 260 | - | 38,885 |
| 合計 | 38,625 | 260 | - | 38,885 |

(注) 自己株式の増加260株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の 総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|---------------------|-------|--------------------|---------------------|-------------|------------|
| 平成24年7月25日 取締役会 | 普通株式 | 53,139 | 9.00 | 平成24年5月31日 | 平成24年8月27日 |
| 平成24年12月27日 取締役会 | 普通株式 | 53,138 | 9.00 | 平成24年11月30日 | 平成25年2月12日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の 総額 (千円) | 配当の原資 | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|--------------------|-------|--------------------|-------|---------------------|------------|------------|
| 平成25年7月26日 取締役会 | 普通株式 | 64,945 | 利益剰余金 | 11.00 | 平成25年5月31日 | 平成25年8月26日 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | 前連結会計年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) |
|------------------|--|--|
| 現金及び預金勘定 | 993,126千円 | 1,167,479千円 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | - | - |
| 現金及び現金同等物 | 993,126 | 1,167,479 |

2. 前連結会計年度に事業の譲受けにより増加した資産及び負債の主な内訳は次のとおりであります。

| | |
|------|-----------|
| 流動資産 | 49,382千円 |
| 固定資産 | 59,766千円 |
| 資産合計 | 109,149千円 |

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンスリース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、工場における製造設備及び物流設備(機械及び装置)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3. 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|-----|-------------------------|-------------------------|
| 1年内 | 543千円 | -千円 |
| 1年超 | - | - |
| 合計 | 543 | - |

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い預金及び低リスクの有価証券に限定し、また、資金調達については銀行借入を基本方針としておりますが、長期かつ多額の調達においては、増資等の最適な方法で調達する方針であります。デリバティブは借入金の金利変動リスクの回避、為替変動リスクの回避等に利用し、収益獲得を目的とした投機的な取引は行わない方針であります。

複合金融商品に組み込まれたデリバティブ取引については、元本毀損リスクを伴わない範囲で取り組んでおります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、債権管理規程に従い取引先ごとの回収管理を行うとともに、定期的に開催される債権管理委員会にて債権管理の状況をチェックする体制としています。

有価証券及び投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価の把握を行っております。

支払手形及び買掛金、ファクタリング債務は、全て1年以内に支払日が到来するものです。

借入金及びリース債務のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であります。また、長期借入金及びリース債務は主に設備投資に係る資金調達であり、その期間は当該設備の法定耐用年数以内としております。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、このうち長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しています。ヘッジの有効性の評価方法については、金融商品会計基準に基づく金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しています。

デリバティブ取引の執行・管理については、職務権限規程並びに金融商品管理規程に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っています。

また、営業債務や借入金は、手元流動性の確保に努め、月次に資金繰表を作成するなどの方法により管理しています。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成24年5月31日）

| | 連結貸借対照表 計上額（千円） | 時価 （千円） | 差額 （千円） |
|----------------------|--------------------|-------------|------------|
| (1) 現金及び預金 | 993,126 | 993,126 | - |
| (2) 受取手形及び売掛金 | 2,676,137 | 2,676,137 | - |
| (3) 投資有価証券 | 213,122 | 213,122 | - |
| (4) 支払手形及び買掛金（*） | (1,010,771) | (1,010,771) | - |
| (5) ファクタリング債務（*） | (1,277,606) | (1,277,606) | - |
| (6) 短期借入金（*） | (650,000) | (650,000) | - |
| (7) 1年内返済予定の長期借入金（*） | (309,500) | (309,500) | - |
| (8) （短期）リース債務（*） | (161,867) | (161,867) | - |
| (9) 未払法人税等（*） | (133,600) | (133,600) | - |
| (10) （長期）リース債務（*） | (229,662) | (230,131) | 468 |
| (11) デリバティブ取引 | - | - | - |

（*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しています。

当連結会計年度（平成25年5月31日）

| | 連結貸借対照表 計上額（千円） | 時価 （千円） | 差額 （千円） |
|----------------------|--------------------|-------------|------------|
| (1) 現金及び預金 | 1,167,479 | 1,167,479 | - |
| (2) 受取手形及び売掛金 | 2,814,790 | 2,814,790 | - |
| (3) 投資有価証券 | 252,691 | 252,691 | - |
| (4) 支払手形及び買掛金（*） | (1,019,236) | (1,019,236) | - |
| (5) ファクタリング債務（*） | (1,281,560) | (1,281,560) | - |
| (6) 短期借入金（*） | (600,000) | (600,000) | - |
| (7) 1年内返済予定の長期借入金（*） | (158,444) | (158,444) | - |
| (8) （短期）リース債務（*） | (141,363) | (141,363) | - |
| (9) 長期借入金（*） | (568,482) | (568,448) | 33 |
| (10) デリバティブ取引 | - | - | - |

（*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しています。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

前連結会計年度(平成24年5月31日)

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、投資信託は公表されている基準価格によっております。

(4) 支払手形及び買掛金、(5) ファクタリング債務、(6) 短期借入金、

(7) 1年内返済予定の長期借入金、(8) (短期)リース債務、(9) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(10) (長期)リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入又はリースを行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

なお、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」適用前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、未経過リース料残高をリース債務残高としており、リース債務の額には利息相当額が含まれております。

(11) デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている1年内返済予定の長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該1年内返済予定の長期借入金の時価に含めて記載しております(上記(7)参照)。

当連結会計年度(平成25年5月31日)

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、投資信託は公表されている基準価格によっております。

(4) 支払手形及び買掛金、(5) ファクタリング債務、(6) 短期借入金、

(7) 1年内返済予定の長期借入金、(8) (短期)リース債務

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(9) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており(下記(10)デリバティブ取引参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(10) デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております(上記(9)参照)。

(注) 2 . 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|-------------------|-------------------------|-------------------------|
| 非上場株式 (千円) | 82,280 | 82,280 |
| 投資事業組合への出資持分 (千円) | 11,627 | 11,091 |

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 . 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (平成24年5月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超5年以内 (千円) | 5年超10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|-------------------|--------------|-----------------|------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 993,126 | - | - | - |
| 受取手形及び売掛金 | 2,676,137 | - | - | - |
| 投資有価証券 | | | | |
| その他有価証券のうち満期があるもの | | | | |
| (1)債券 | - | - | - | 100,000 |
| (2)その他 | - | 12,665 | - | - |
| 合計 | 3,669,264 | 12,665 | - | 100,000 |

当連結会計年度 (平成25年5月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超5年以内 (千円) | 5年超10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|-------------------|--------------|-----------------|------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 1,167,479 | - | - | - |
| 受取手形及び売掛金 | 2,814,790 | - | - | - |
| 投資有価証券 | | | | |
| その他有価証券のうち満期があるもの | | | | |
| (1)債券 | - | - | - | 100,000 |
| (2)その他 | - | 43,481 | - | - |
| 合計 | 3,982,269 | 43,481 | - | 100,000 |

(注) 4 . 短期借入金、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成24年5月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 2年以内 (千円) | 2年超 3年以内 (千円) | 3年超 4年以内 (千円) | 4年超 5年以内 (千円) | 5年超 (千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 短期借入金 | 650,000 | - | - | - | - | - |
| 長期借入金 | 309,500 | - | - | - | - | - |
| リース債務 | 161,867 | 138,963 | 46,932 | 12,427 | 11,408 | 19,930 |

当連結会計年度(平成25年5月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 2年以内 (千円) | 2年超 3年以内 (千円) | 3年超 4年以内 (千円) | 4年超 5年以内 (千円) | 5年超 (千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 短期借入金 | 600,000 | - | - | - | - | - |
| 長期借入金 | 158,444 | 158,444 | 158,444 | 158,444 | 93,150 | - |
| リース債務 | 141,363 | 48,479 | 14,004 | 13,053 | 11,119 | 9,755 |

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成24年5月31日)

1. その他有価証券

| | 種類 | 連結貸借対照表計上 額(千円) | 取得原価 (千円) | 差額(千円) |
|----------------------------|---------|--------------------|--------------|--------|
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | (1) 株式 | 52,852 | 46,374 | 6,477 |
| | (2) 債券 | | | |
| | 国債・地方債等 | - | - | - |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | - | - | - |
| | (3) その他 | 15,938 | 15,227 | 711 |
| | 小計 | 68,790 | 61,602 | 7,188 |
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | (1) 株式 | 38,342 | 56,002 | 17,660 |
| | (2) 債券 | | | |
| | 国債・地方債等 | - | - | - |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | 74,740 | 100,000 | 25,260 |
| | (3) その他 | 31,249 | 47,090 | 15,840 |
| | 小計 | 144,331 | 203,092 | 58,761 |
| | 合計 | 213,122 | 264,695 | 51,572 |

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額82,280千円)及び投資事業組合等への出資持分(連結貸借対照表計上額11,627千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

なお、減損処理は、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行います。

当連結会計年度（平成25年5月31日）

1. その他有価証券

| | 種類 | 連結貸借対照表計上額（千円） | 取得原価（千円） | 差額（千円） |
|------------------------|---------|----------------|----------|--------|
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | (1) 株式 | 53,675 | 42,153 | 11,521 |
| | (2) 債券 | | | |
| | 国債・地方債等 | - | - | - |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | - | - | - |
| | (3) その他 | 31,819 | 29,561 | 2,257 |
| | 小計 | 85,494 | 71,715 | 13,779 |
| 連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | (1) 株式 | 55,240 | 70,922 | 15,681 |
| | (2) 債券 | | | |
| | 国債・地方債等 | - | - | - |
| | 社債 | - | - | - |
| | その他 | 88,110 | 100,000 | 11,890 |
| | (3) その他 | 23,846 | 31,315 | 7,469 |
| | 小計 | 167,196 | 202,237 | 35,041 |
| | 合計 | 252,691 | 273,952 | 21,261 |

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額82,280千円）及び投資事業組合等への出資持分（連結貸借対照表計上額11,091千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

なお、減損処理は、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行います。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自平成24年6月1日 至平成25年5月31日）

| 種類 | 売却額（千円） | 売却益の合計額（千円） | 売却損の合計額（千円） |
|-----|---------|-------------|-------------|
| その他 | 37,487 | 178 | 685 |

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

(1) 退職給付制度

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度、確定給付企業年金制度を設定しております。また、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

(2) 制度別の補足説明

一時金制度

当社において、会社設立時より退職一時金制度を設定しております。

確定給付企業年金制度

当社は、昭和56年8月1日より適格退職年金制度を採用していましたが、平成22年5月1日に適格退職年金制度から、確定給付企業年金制度へ移行しております。この移行に伴い、従来は定年退職者のみが年金制度から退職金(年金)を支給されておりましたが、途中退職者についても年金制度から退職金(年金)が支給されることとなっております。

2. 退職給付債務に関する事項

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| (1) 退職給付債務 (千円) | 1,302,407 | 1,270,367 |
| (2) 年金資産 (千円) | 416,766 | 467,565 |
| (3) 未積立退職給付債務(+) (千円) | 885,640 | 802,801 |
| (4) 未認識数理計算上の差異 (千円) | - | - |
| (5) 差引(+) (千円) | 885,640 | 802,801 |
| (6) 前払年金費用 (千円) | - | - |
| (7) 退職給付引当金(+) (千円) | 885,640 | 802,801 |

3. 退職給付費用に関する事項

| | 前連結会計年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) |
|-------------------------|--|--|
| (1) 勤務費用 (千円) | 89,009 | 88,883 |
| (2) 利息費用 (千円) | 20,529 | 21,558 |
| (3) 期待運用収益 (千円) | 4,031 | 5,209 |
| (4) 数理計算上の差異の費用処理額 (千円) | 24,611 | 736 |

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

| 前連結会計年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) |
|--|--|
| 1.672% | 1.672% |

(3) 期待運用収益率

| 前連結会計年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) |
|--|--|
| 1.250% | 1.250% |

(4) 数理計算上の差異の処理年数

発生年度において、一括費用処理

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
| | (千円) | (千円) |
| ・流動資産 | | |
| 繰延税金資産 | | |
| 未払賞与 | 60,487 | 61,330 |
| 未払リベート | 3,692 | 3,083 |
| その他 | 55,795 | 38,107 |
| 合計 | 119,975 | 102,521 |
| ・固定資産 | | |
| 繰延税金資産 | | |
| 役員退職慰労引当金 | 70,829 | 68,457 |
| 退職給付引当金 | 293,732 | 289,008 |
| 投資有価証券評価損 | 2,452 | 2,066 |
| 子会社株式評価損 | 20,778 | 20,778 |
| たな卸資産低価評価損 | 5,099 | 4,780 |
| その他有価証券評価差額金 | 18,566 | 7,654 |
| その他 | 3,791 | 3,661 |
| 小計 | 415,249 | 396,407 |
| 評価性引当金 | 28,330 | 27,625 |
| 合計 | 386,918 | 368,782 |
| 繰延税金資産の合計 | 506,894 | 471,303 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別内訳

| 前連結会計年度 (平成24年5月31日) | | 当連結会計年度 (平成25年5月31日) | |
|-------------------------|-------|---|--|
| 法定実効税率 | 41.0% | 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。 | |
| (調整) | | | |
| 連結子会社の損失 | 2.3% | | |
| 住民税均等割等 | 2.1% | | |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 1.3% | | |
| 試験研究費特別控除額 | 3.6% | | |
| 評価性引当金 | 1.2% | | |
| 税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 | 11.9% | | |
| その他 | 0.8% | | |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 53.0% | | |

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度末(平成24年5月31日)

当社グループは、一部の営業所において不動産賃貸契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しております。また、一部の工場において法令に基づく有害物質の調査・除去に係る債務を有しております。しかし、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確ではなく、また現在、工場・営業所の移転等の予定がないため、債務の履行時期が明確でなく資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。

当連結会計年度末(平成25年5月31日)

当社グループは、一部の営業所において不動産賃貸契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しております。また、一部の工場において法令に基づく有害物質の調査・除去に係る債務を有しております。しかし、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確ではなく、また現在、工場・営業所の移転等の予定がないため、債務の履行時期が明確でなく資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、業務用の化成産品事業を行っており、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自平成23年6月1日 至平成24年5月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客に対する売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客に対する売上高に区分した金額が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客に対する売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自平成24年6月1日 至平成25年5月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客に対する売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客に対する売上高に区分した金額が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客に対する売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成23年6月1日 至平成24年5月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成24年6月1日 至平成25年5月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成23年6月1日 至平成24年5月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成24年6月1日 至平成25年5月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成23年6月1日 至平成24年5月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成24年6月1日 至平成25年5月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

| 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|---|---|
| 1株当たり純資産額 1,063.32円 | 1株当たり純資産額 1,124.15円 |
| 1株当たり当期純利益金額 39.26円 | 1株当たり当期純利益金額 69.19円 |
| なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。 | なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。 |

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

| | 前連結会計年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当連結会計年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|------------------|---|---|
| 1株当たり当期純利益金額 | | |
| 当期純利益(千円) | 231,810 | 408,511 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る当期純利益(千円) | 231,810 | 408,511 |
| 期中平均株式数(株) | 5,904,504 | 5,904,307 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

| 区分 | 当期首残高 (千円) | 当期末残高 (千円) | 平均利率 (%) | 返済期限 |
|-------------------------|---------------|---------------|-------------|-----------|
| 短期借入金 | 650,000 | 600,000 | 0.54 | - |
| 1年以内に返済予定の長期借入金 | 309,500 | 158,444 | 0.55 | - |
| 1年以内に返済予定のリース債務 | 161,867 | 141,363 | - | - |
| 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。) | - | 568,482 | 0.55 | 平成26年～30年 |
| リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。) | 229,662 | 96,413 | - | 平成26年～32年 |
| その他有利子負債 | - | - | - | - |
| 合計 | 1,351,030 | 1,564,703 | - | - |

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、一部のリース債務について、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は次のとおりであります。

| | 1年超2年以内 (千円) | 2年超3年以内 (千円) | 3年超4年以内 (千円) | 4年超5年以内 (千円) |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 長期借入金 | 158,444 | 158,444 | 158,444 | 93,150 |
| リース債務 | 48,479 | 14,004 | 13,053 | 11,119 |

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

| (累計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 当連結会計年度 |
|----------------------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 売上高(千円) | 3,074,904 | 6,341,617 | 9,506,809 | 12,819,696 |
| 税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円) | 92,356 | 311,329 | 500,435 | 661,291 |
| 四半期(当期)純利益金額 (千円) | 54,568 | 191,721 | 307,420 | 408,511 |
| 1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円) | 9.24 | 32.47 | 52.07 | 69.19 |

| (会計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 |
|----------------------|-------|-------|-------|-------|
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 9.24 | 23.23 | 19.60 | 17.12 |

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 867,739 | 1,046,078 |
| 受取手形 | 830,784 | 858,068 |
| 売掛金 | 1,748,516 | 1,861,911 |
| 商品及び製品 | 524,081 | 509,862 |
| 仕掛品 | 40,505 | 49,372 |
| 原材料及び貯蔵品 | 323,255 | 258,878 |
| 前渡金 | 27,705 | 36,631 |
| 前払費用 | 26,357 | 28,701 |
| 繰延税金資産 | 113,304 | 98,432 |
| 関係会社短期貸付金 | 215,500 | 195,000 |
| その他 | 7,272 | 16,003 |
| 貸倒引当金 | 3,231 | 3,372 |
| 流動資産合計 | 4,721,793 | 4,955,568 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 1 5,163,496 | 1 5,226,448 |
| 減価償却累計額 | 2,772,955 | 2,941,040 |
| 建物(純額) | 2,390,540 | 2,285,407 |
| 構築物 | 1 333,835 | 1 336,440 |
| 減価償却累計額 | 255,037 | 267,439 |
| 構築物(純額) | 78,797 | 69,001 |
| 機械及び装置 | 1 5,390,323 | 1 5,424,046 |
| 減価償却累計額 | 4,883,615 | 5,046,990 |
| 機械及び装置(純額) | 506,708 | 377,056 |
| 車両運搬具 | 1,939 | 1,939 |
| 減価償却累計額 | 1,939 | 1,939 |
| 車両運搬具(純額) | 0 | 0 |
| 工具、器具及び備品 | 1 583,230 | 1 679,011 |
| 減価償却累計額 | 516,273 | 569,966 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 66,956 | 109,044 |
| 土地 | 1 1,994,867 | 1 2,292,767 |
| リース資産 | 1,119,314 | 1,022,603 |
| 減価償却累計額 | 618,512 | 679,761 |
| リース資産(純額) | 500,801 | 342,841 |
| 建設仮勘定 | 925 | 430,608 |
| その他 | 1,509 | 1,509 |
| 有形固定資産合計 | 5,541,107 | 5,908,237 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 106,413 | 72,161 |
| ソフトウェア仮勘定 | 1,122 | 5,921 |
| その他 | 7,204 | 7,204 |
| 無形固定資産合計 | 114,741 | 85,288 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 307,029 | 346,062 |
| 長期預金 | 100,000 | 200,000 |
| 関係会社株式 | 180,535 | 185,535 |
| 従業員に対する長期貸付金 | 9,976 | 8,927 |
| 関係会社長期貸付金 | 137,000 | 142,500 |
| 破産更生債権等 | 5,000 | 4,938 |
| 長期前払費用 | 22,720 | 17,217 |
| 繰延税金資産 | 385,850 | 367,880 |
| 保険積立金 | 148,223 | 151,159 |
| 差入保証金 | 26,751 | 32,893 |
| その他 | 9,383 | 9,711 |
| 貸倒引当金 | 5,000 | 4,938 |
| 投資その他の資産合計 | 1,327,470 | 1,461,888 |
| 固定資産合計 | 6,983,319 | 7,455,414 |
| 資産合計 | 11,705,113 | 12,410,982 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形 | 465,991 | 484,127 |
| 買掛金 | 483,930 | 487,429 |
| ファクタリング債務 | 1,277,606 | 1,281,560 |
| 短期借入金 | 650,000 | 600,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 309,500 | 158,444 |
| リース債務 | 149,008 | 127,820 |
| 未払金 | 238,547 | 324,840 |
| 未払費用 | 283,458 | 298,016 |
| 未払法人税等 | 104,000 | 107,000 |
| 未払消費税等 | 27,286 | 15,812 |
| 設備関係支払手形 | 39,416 | 208,779 |
| その他 | 35,247 | 38,396 |
| 流動負債合計 | 4,063,991 | 4,132,228 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | - | 568,482 |
| リース債務 | 214,962 | 87,142 |
| 退職給付引当金 | 885,640 | 802,801 |
| 役員退職慰労引当金 | 205,558 | 215,290 |
| その他 | 20,448 | 23,404 |
| 固定負債合計 | 1,326,609 | 1,697,120 |
| 負債合計 | 5,390,601 | 5,829,349 |

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 585,199 | 585,199 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 595,337 | 595,337 |
| 資本剰余金合計 | 595,337 | 595,337 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 24,873 | 24,873 |
| その他利益剰余金 | | |
| 別途積立金 | 2,000,000 | 2,000,000 |
| 繰越利益剰余金 | 3,192,008 | 3,439,977 |
| 利益剰余金合計 | 5,216,882 | 5,464,851 |
| 自己株式 | 49,900 | 50,146 |
| 株主資本合計 | 6,347,518 | 6,595,240 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 33,006 | 13,607 |
| 純資産合計 | 6,314,511 | 6,581,633 |
| 負債純資産合計 | 11,705,113 | 12,410,982 |

【損益計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | | |
| 製品売上高 | 8,837,598 | 9,222,823 |
| 商品売上高 | 2,882,004 | 2,958,677 |
| その他 | 14,056 | 10,946 |
| 売上高合計 | 11,733,659 | 12,192,446 |
| 売上原価 | | |
| 製品期首たな卸高 | 462,692 | 440,115 |
| 当期製品仕入高 | 109,286 | 253,739 |
| 当期製品製造原価 | 4,672,721 | 4,688,245 |
| 合計 | 5,244,700 | 5,382,099 |
| 製品期末たな卸高 | 440,115 | 433,463 |
| 製品他勘定振替高 | ³ 54,995 | ³ 46,720 |
| 原材料評価損 | 12,440 | 4,387 |
| 製品評価損 | 87 | 891 |
| 製品売上原価 | 4,737,061 | 4,905,411 |
| 商品期首たな卸高 | 98,548 | 83,648 |
| 当期商品仕入高 | 2,504,874 | 2,571,178 |
| 合計 | 2,603,423 | 2,654,827 |
| 商品期末たな卸高 | 83,648 | 78,952 |
| 商品他勘定振替高 | ⁴ 66,415 | ⁴ 64,913 |
| 商品評価損 | 1,435 | 369 |
| 商品売上原価 | 2,451,923 | 2,510,592 |
| その他 | 11,178 | 7,977 |
| 売上原価合計 | 7,200,163 | 7,423,981 |
| 売上総利益 | 4,533,495 | 4,768,465 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 役員報酬 | 138,774 | 137,130 |
| 従業員給料及び賞与 | 890,757 | 983,443 |
| 退職給付費用 | 41,597 | 59,101 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 31,493 | 20,549 |
| 法定福利費 | 145,568 | 155,925 |
| 福利厚生費 | 27,153 | 36,223 |
| 販売促進費 | 103,967 | 112,467 |
| 供給装置費 | 193,112 | 203,872 |
| 見本費 | 113,109 | 108,280 |
| 運賃 | 786,065 | 816,013 |
| 広告宣伝費 | 26,132 | 26,393 |
| 旅費及び交通費 | 80,356 | 86,208 |
| 通信費 | 40,973 | 44,589 |
| 保険料 | 25,543 | 27,004 |
| 賃借料 | 79,831 | 92,492 |
| 消耗品費 | 40,905 | 38,646 |
| 租税公課 | 41,862 | 59,734 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|--------------|---|---|
| 研究開発費 | 2 324,932 | 2 284,581 |
| 外注費 | 416,271 | 425,539 |
| 業務委託費 | 127,770 | 136,121 |
| 減価償却費 | 220,623 | 174,033 |
| その他 | 163,634 | 174,080 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 4,060,436 | 4,202,433 |
| 営業利益 | 473,059 | 566,031 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 5 3,584 | 5 6,538 |
| 受取配当金 | 7,042 | 11,635 |
| 受取手数料 | 4,386 | 5,239 |
| 助成金収入 | 345 | 524 |
| 為替差益 | - | 12,561 |
| その他 | 7,909 | 12,705 |
| 営業外収益合計 | 23,268 | 49,204 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 11,905 | 10,561 |
| 創立50周年関連費用 | - | 20,952 |
| 投資事業組合運用損 | 2,445 | 535 |
| 為替差損 | 1,324 | - |
| 貸倒引当金繰入額 | 3,740 | 1,553 |
| その他 | 143 | 208 |
| 営業外費用合計 | 19,559 | 33,811 |
| 経常利益 | 476,768 | 581,424 |
| 特別利益 | | |
| 保険解約返戻金 | - | 4,820 |
| その他 | - | 178 |
| 特別利益合計 | - | 4,998 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 1 645 | 1 390 |
| たな卸資産廃棄損 | 7,999 | 9,825 |
| その他 | - | 685 |
| 特別損失合計 | 8,645 | 10,902 |
| 税引前当期純利益 | 468,123 | 575,521 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 192,214 | 199,343 |
| 法人税等調整額 | 47,210 | 21,930 |
| 法人税等合計 | 239,425 | 221,273 |
| 当期純利益 | 228,698 | 354,247 |

【製造原価明細書】

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日) | | 当事業年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) | |
|-----------|----------|--------------------------------------|------------|--------------------------------------|------------|
| | | 金額(千円) | 構成比 (%) | 金額(千円) | 構成比 (%) |
| 材料費 | | 3,312,644 | 71.0 | 3,357,843 | 71.4 |
| 労務費 | * 2 | 613,916 | 13.1 | 649,601 | 13.8 |
| 経費 | * 3 | 742,338 | 15.9 | 697,514 | 14.8 |
| 当期総製造費用 | | 4,668,898 | 100.0 | 4,704,960 | 100.0 |
| 期首仕掛品たな卸高 | | 47,435 | | 40,505 | |
| 合計 | | 4,716,334 | | 4,745,465 | |
| 他勘定へ振替高 | * 4 | 3,107 | | 7,847 | |
| 期末仕掛品たな卸高 | | 40,505 | | 49,372 | |
| 当期製品製造原価 | | 4,672,721 | | 4,688,245 | |

(脚注)

| 項目 | 前事業年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日) | | 当事業年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) | |
|-----------------|---|---------|---|---------|
| | 金額(千円) | | 金額(千円) | |
| 1. 原価計算の方法 | 製品別の総合原価計算によっております。期中は標準原価を用い、原価差額は、期末において製品、仕掛品、売上原価に配賦しております。 | | 製品別の総合原価計算によっております。期中は標準原価を用い、原価差額は、期末において製品、仕掛品、売上原価に配賦しております。 | |
| * 2. このうち退職給付費用 | | 30,507 | | 37,687 |
| * 3. 経費の主な内訳 | | | | |
| 外注加工費 | | 14,193 | | 14,339 |
| 賃借料 | | 7,541 | | 7,122 |
| 電力費 | | 40,476 | | 44,857 |
| 消耗品費 | | 43,688 | | 44,058 |
| 修繕費 | | 69,414 | | 68,928 |
| 業務委託費 | | 45,479 | | 38,209 |
| 租税公課 | | 25,639 | | 25,663 |
| 減価償却費 | | 441,145 | | 281,267 |
| * 4. 他勘定へ振替高の内訳 | たな卸資産廃棄損 | 3,107 | たな卸資産廃棄損 | 7,847 |
| | 合計 | 3,107 | 合計 | 7,847 |

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|-----------------|---|---|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 当期首残高 | 585,199 | 585,199 |
| 当期末残高 | 585,199 | 585,199 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | |
| 当期首残高 | 595,337 | 595,337 |
| 当期末残高 | 595,337 | 595,337 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | | |
| 当期首残高 | 24,873 | 24,873 |
| 当期末残高 | 24,873 | 24,873 |
| その他利益剰余金 | | |
| 別途積立金 | | |
| 当期首残高 | 2,000,000 | 2,000,000 |
| 当期末残高 | 2,000,000 | 2,000,000 |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 当期首残高 | 3,069,591 | 3,192,008 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 106,281 | 106,278 |
| 当期純利益 | 228,698 | 354,247 |
| 当期変動額合計 | 122,417 | 247,969 |
| 当期末残高 | 3,192,008 | 3,439,977 |
| 利益剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 5,094,464 | 5,216,882 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 106,281 | 106,278 |
| 当期純利益 | 228,698 | 354,247 |
| 当期変動額合計 | 122,417 | 247,969 |
| 当期末残高 | 5,216,882 | 5,464,851 |
| 自己株式 | | |
| 当期首残高 | 49,817 | 49,900 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の取得 | 82 | 246 |
| 当期変動額合計 | 82 | 246 |
| 当期末残高 | 49,900 | 50,146 |
| 株主資本合計 | | |
| 当期首残高 | 6,225,184 | 6,347,518 |

| | 前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|---------------------|---|---|
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 106,281 | 106,278 |
| 当期純利益 | 228,698 | 354,247 |
| 自己株式の取得 | 82 | 246 |
| 当期変動額合計 | 122,334 | 247,722 |
| 当期末残高 | 6,347,518 | 6,595,240 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期首残高 | 24,523 | 33,006 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 8,482 | 19,399 |
| 当期変動額合計 | 8,482 | 19,399 |
| 当期末残高 | 33,006 | 13,607 |
| 純資産合計 | | |
| 当期首残高 | 6,200,660 | 6,314,511 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 106,281 | 106,278 |
| 当期純利益 | 228,698 | 354,247 |
| 自己株式の取得 | 82 | 246 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 8,482 | 19,399 |
| 当期変動額合計 | 113,851 | 267,121 |
| 当期末残高 | 6,314,511 | 6,581,633 |

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

総平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業組合等への出資持分(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品及び商品・原材料及び貯蔵品・仕掛品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物 7年~50年

構築物 7年~50年

機械及び装置 5年~8年

車輛運搬具 2年~5年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

会計基準変更時差異、過去勤務債務並びに数理計算上の差異は、発生時に一括して費用処理することとしております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく期末要支給額を計上しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理を採用しています。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金

(3) ヘッジ方針

ヘッジ対象に係る金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

当社は法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年6月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益それぞれに与える影響額は軽微であります。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。

工場財団担保資産

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|-----------|-----------------------|-----------------------|
| 建物 | 869,675千円 | 846,817千円 |
| 構築物 | 18,992 | 19,082 |
| 機械及び装置 | 194,933 | 152,068 |
| 工具、器具及び備品 | 21,625 | 23,690 |
| 土地 | 800,381 | 800,381 |
| 合計 | 1,905,607 | 1,842,040 |

上記に対する債務

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|-----------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 短期借入金 | 650,000千円 | 600,000千円 |
| 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む) | 284,500 | 626,926 |
| 合計 | 934,500 | 1,226,926 |

2. 当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行9行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|---------|-----------------------|-----------------------|
| 当座貸越極度額 | 2,600百万円 | 2,600百万円 |
| 借入実行残高 | 650 | 600 |
| 差引額 | 1,950 | 2,000 |

3. 偶発債務

(1) 当社は、子会社であります福建新拓高日用化学品有限公司の円滑な設備投資を支援するため、同社の設備購入代金支払債務に対し、次の債務保証枠を設定しております。

なお、人民元建契約の円建記載は期末日現在の為替レートにて換算したものであります。

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|--------|-----------------------|-----------------------|
| 保証極度額 | 49,817千円(400万元) | 65,576千円(400万元) |
| 債務保証残高 | 26,989 (216) | 24,657 (150) |
| 差引額 | 22,828 (183) | 40,919 (249) |

(2) 当社は、子会社であります株式会社ユーホーニイタカの円滑な原材料の調達を支援するため、同社の原材料購入代金支払債務に対し、次の債務保証枠を設定しております。

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|--------|-----------------------|-----------------------|
| 保証極度額 | 5,000千円 | 15,000千円 |
| 債務保証残高 | 213 | - |
| 差引額 | 4,786 | 15,000 |

(3) 当社は、債権管理事務のアウトソースを目的として、食器洗浄機に係るレンタル債権の一部をリース会社に売却いたしました。当該債権に関する買戻義務を次のとおり有しております。

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|------|-----------------------|-----------------------|
| 買戻義務 | 3,014千円 | 440千円 |

(損益計算書関係)

1. 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

固定資産除売却損

| | 前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|-----------|---|---|
| 建物 | - 千円 | 23千円 |
| 機械及び装置 | 240 | 287 |
| 工具、器具及び備品 | 404 | 80 |
| 合計 | 645 | 390 |

2. 研究開発費の総額は次のとおりであります。

一般管理費に含まれる研究開発費

| | 前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|--|---|---|
| | 324,932千円 | 284,581千円 |

3. 製品他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|----------|---|---|
| 製品見本費 | 51,618千円 | 44,172千円 |
| 消耗品費 | 1,513 | 1,235 |
| 株主優待 | 1,094 | 1,312 |
| たな卸資産廃棄損 | 769 | - |
| 合計 | 54,995 | 46,720 |

4. 商品他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|----------|---|---|
| 商品見本費 | 61,490千円 | 64,108千円 |
| 消耗品費 | 1,143 | 376 |
| たな卸資産廃棄損 | 3,781 | 428 |
| 合計 | 66,415 | 64,913 |

5. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

| | 前事業年度 (自 平成23年 6月 1日 至 平成24年 5月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 6月 1日 至 平成25年 5月31日) |
|------|---|---|
| 受取利息 | 3,211千円 | 3,342千円 |

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当事業年度期首株式数(株) | 当期増加株式数(株) | 当期減少株式数(株) | 当事業年度末株式数(株) |
|---------|---------------|------------|------------|--------------|
| 普通株式(注) | 38,538 | 87 | - | 38,625 |
| 合計 | 38,538 | 87 | - | 38,625 |

(注)普通株式の自己株式の増加87株は、単元未満株式の買取による増加であります。

当事業年度(自平成24年6月1日至平成25年5月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当事業年度期首株式数(株) | 当期増加株式数(株) | 当期減少株式数(株) | 当事業年度末株式数(株) |
|---------|---------------|------------|------------|--------------|
| 普通株式(注) | 38,625 | 260 | - | 38,885 |
| 合計 | 38,625 | 260 | - | 38,885 |

(注)普通株式の自己株式の増加260株は、単元未満株式の買取による増加であります。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンスリース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、工場における製造設備及び物流設備(機械及び装置)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|-----|-----------------------|-----------------------|
| 1年内 | 543千円 | -千円 |
| 1年超 | - | - |
| 合計 | 543 | - |

(有価証券関係)

前事業年度(平成24年5月31日)

1. 子会社株式及び関連会社株式

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

| 区分 | 貸借対照表計上額(千円) |
|--------|--------------|
| 子会社株式 | 180,535 |
| 関連会社株式 | - |

当事業年度(平成25年5月31日)

1. 子会社株式及び関連会社株式

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

| 区分 | 貸借対照表計上額(千円) |
|--------|--------------|
| 子会社株式 | 185,535 |
| 関連会社株式 | - |

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前事業年度 (平成24年5月31日) (千円) | 当事業年度 (平成25年5月31日) (千円) |
|--------------|-------------------------------|-------------------------------|
| ・流動資産 | | |
| 繰延税金資産 | | |
| 未払賞与 | 58,153 | 59,247 |
| 一括償却資産 | 2,558 | 2,154 |
| 未払事業税 | 9,054 | 10,341 |
| 未払リベート | 3,692 | 3,083 |
| その他 | 39,845 | 23,605 |
| 合計 | 113,304 | 98,432 |
| ・固定資産 | | |
| 繰延税金資産 | | |
| 役員退職慰労引当金 | 70,829 | 68,457 |
| 退職給付引当金 | 293,732 | 289,008 |
| 貸倒引当金 | 1,283 | 1,592 |
| 投資有価証券評価損 | 2,452 | 2,066 |
| 子会社株式評価損 | 20,778 | 20,778 |
| たな卸資産低価評価損 | 5,099 | 4,780 |
| その他有価証券評価差額金 | 18,566 | 7,654 |
| その他 | 1,439 | 1,167 |
| 小計 | 414,180 | 395,505 |
| 評価性引当金 | 28,330 | 27,625 |
| 合計 | 385,850 | 367,880 |
| 繰延税金資産の合計 | 499,155 | 466,312 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別内訳

| 前事業年度 (平成24年5月31日) | | 当事業年度 (平成25年5月31日) |
|-----------------------|-------|---|
| 法定実効税率 | 41.0% | 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。 |
| (調整) | | |
| 住民税均等割等 | 2.1% | |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 1.3% | |
| 試験研究費特別控除額 | 3.8% | |
| 評価性引当金 | 1.2% | |
| 税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 | 12.7% | |
| その他 | 0.9% | |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 51.1% | |

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前事業年度末(平成24年5月31日)

当社は、一部の営業所において不動産賃貸契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確ではなく、また現在、移転等の予定がないため、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。

当事業年度末(平成25年5月31日)

当社は、一部の営業所において不動産賃貸契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確ではなく、また現在、移転等の予定がないため、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。

(1株当たり情報)

| 前事業年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日) | | 当事業年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) | |
|---|-----------|---|-----------|
| 1株当たり純資産額 | 1,069.45円 | 1株当たり純資産額 | 1,114.74円 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 38.73円 | 1株当たり当期純利益金額 | 60.00円 |
| なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。 | | なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。 | |

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

| | 前事業年度 (自平成23年6月1日 至平成24年5月31日) | 当事業年度 (自平成24年6月1日 至平成25年5月31日) |
|------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1株当たり当期純利益金額 | | |
| 当期純利益(千円) | 228,698 | 354,247 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る当期純利益(千円) | 228,698 | 354,247 |
| 期中平均株式数(株) | 5,904,505 | 5,904,307 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

| | | 銘柄 | 株式数(株) | 貸借対照表計上額 (千円) |
|------------|-------------|-------------------|---------|------------------|
| 投資有価 証券 | その他 有価証券 | (株)みずほフィナンシャルグループ | 90,000 | 57,800 |
| | | 阪本薬品工業(株) | 34,000 | 32,080 |
| | | 尾家産業(株) | 25,280 | 20,299 |
| | | (株)ヤマナカ | 24,300 | 17,544 |
| | | (株)マツヤ | 26,000 | 13,312 |
| | | (株)サトー商会 | 12,900 | 11,661 |
| | | テイカ(株) | 40,000 | 11,520 |
| | | (株)ファルコSDホールディングス | 7,540 | 10,194 |
| | | (株)ヴィア・ホールディングス | 10,600 | 9,010 |
| | | ジーエフシー(株) | 7,800 | 7,573 |
| | | 財形住宅金融(株) | 1 | 200 |
| | | | | 小計 |
| | | 計 | 278,421 | 191,195 |

【債券】

| | | 種類及び銘柄 | 券面総額(千円) | 貸借対照表計上額 (千円) |
|------------|-------------|------------------|----------|------------------|
| 投資有価 証券 | その他 有価証券 | 円豪ドルパワーリバースデュアル債 | 100,000 | 88,110 |
| | | 小計 | 100,000 | 88,110 |
| | | 計 | 100,000 | 88,110 |

【その他】

| | | 銘柄 | 投資口数(口) | 貸借対照表計上額 (千円) |
|------------|-------------|----------------------|------------|------------------|
| 投資有価 証券 | その他 有価証券 | PIMCOニューワールドインカムファンド | 18,500,000 | 19,635 |
| | | 大和技術成長株オープン | 33,000,000 | 19,149 |
| | | MHAM株式インデックスファンド225 | 48,558,850 | 12,183 |
| | | FVCリテール投資事業有限責任組合 | 5 | 11,091 |
| | | ダイワ・ブルベア・ファンド | 9,930,510 | 4,696 |
| | | 小計 | - | 66,757 |
| | | 計 | - | 66,757 |

【有形固定資産等明細表】

| 資産の種類 | 当期首残高 (千円) | 当期増加額 (千円) | 当期減少額 (千円) | 当期末残高 (千円) | 当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円) | 当期償却額 (千円) | 差引当期末残高 (千円) |
|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------------------|---------------|--------------------|
| 有形固定資産 | | | | | | | |
| 建物 | 5,163,496 | 63,581 | 630 | 5,226,448 | 2,941,040 | 168,691 | 2,285,407 |
| 構築物 | 333,835 | 2,605 | - | 336,440 | 267,439 | 12,401 | 69,001 |
| 機械及び装置 | 5,390,323 | 49,711 | 15,988 | 5,424,046 | 5,046,990 | 176,949 | 377,056 |
| 車両運搬具 | 1,939 | - | - | 1,939 | 1,939 | 0 | 0 |
| 工具、器具及び備品 | 583,230 | 104,140 | 8,359 | 679,011 | 569,966 | 61,971 | 109,044 |
| 土地 | 1,994,867 | 297,900 | - | 2,292,767 | - | - | 2,292,767 |
| リース資産 | 1,119,314 | 13,184 | 109,895 | 1,022,603 | 679,761 | 156,726 | 342,841 |
| 建設仮勘定 | 925 | 649,721 | 220,037 | 430,608 | - | - | 430,608 |
| その他 | 1,509 | - | - | 1,509 | - | - | 1,509 |
| 有形固定資産計 | 14,589,443 | 1,180,843 | 354,910 | 15,415,375 | 9,507,138 | 576,740 | 5,908,237 |
| 無形固定資産 | | | | | | | |
| ソフトウェア | 729,706 | 12,607 | 1,313 | 741,000 | 668,838 | 45,859 | 72,161 |
| ソフトウェア仮勘定 | 1,122 | 17,406 | 12,607 | 5,921 | - | - | 5,921 |
| その他 | 7,204 | - | - | 7,204 | - | - | 7,204 |
| 無形固定資産計 | 738,033 | 30,013 | 13,920 | 754,127 | 668,838 | 45,859 | 85,288 |
| 長期前払費用 | 135,050 | 20,505 | - | 155,556 | 115,825 | 23,512 | 39,730 (22,513) |
| 繰延資産 | - | - | - | - | - | - | - |
| 繰延資産計 | - | - | - | - | - | - | - |

(注) 1. 長期前払費用の差引当期末残高の()内金額(内数)は、1年以内に費用になるものとして前払費用に振替えた金額であります。

2. 当期増減額のうち主なものは次のとおりであります。

| 資産の種類 | 増減区分 | 管理部門 | 金額(千円) | 管理部門 | 金額(千円) |
|-----------|------|-------|---------|-------|--------|
| 建物 | 増加額 | びわ湖工場 | 50,425 | - | - |
| 機械及び装置 | 増加額 | びわ湖工場 | 27,331 | つくば工場 | 22,150 |
| | 減少額 | びわ湖工場 | 9,068 | - | - |
| 工具、器具及び備品 | 増加額 | 本社 | 64,410 | つくば工場 | 35,740 |
| 土地 | 増加額 | つくば工場 | 293,895 | - | - |
| リース資産 | 減少額 | 本社 | 9,235 | - | - |
| ソフトウェア | 増加額 | 本社 | 10,927 | - | - |

3. 建設仮勘定及びソフトウェア仮勘定の当期増加額は上記各資産科目の取得に伴う増加であり、当期減少額は振替によるものであります。

【引当金明細表】

| 区分 | 当期首残高 (千円) | 当期増加額 (千円) | 当期減少額 (目的使用) (千円) | 当期減少額 (その他) (千円) | 当期末残高 (千円) |
|-----------|---------------|---------------|-------------------------|------------------------|---------------|
| 貸倒引当金 | 8,231 | 6,073 | 1,654 | 4,338 | 8,311 |
| 役員退職慰労引当金 | 205,558 | 20,549 | 10,817 | - | 215,290 |

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

資産の部

イ．現金及び預金

| 区分 | 金額(千円) |
|------|-----------|
| 現金 | 3,936 |
| 預金 | |
| 当座預金 | 402,374 |
| 普通預金 | 638,760 |
| 別段預金 | 1,007 |
| 小計 | 1,042,142 |
| 合計 | 1,046,078 |

ロ．受取手形

相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|------------|---------|
| ホシザキ電機(株) | 112,497 |
| (株)旭創業 | 58,446 |
| (株)テラモト | 50,780 |
| ミドリ安全用品(株) | 50,316 |
| (株)日旅産業 | 44,665 |
| その他 | 541,361 |
| 合計 | 858,068 |

期日別内訳

| 期日別 | 金額(千円) |
|---------|---------|
| 平成25年6月 | 297,808 |
| 7月 | 280,134 |
| 8月 | 190,839 |
| 9月 | 76,418 |
| 10月以降 | 12,868 |
| 合計 | 858,068 |

八．売掛金
相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|--------------|-----------|
| (株)東浜 | 144,659 |
| 尾家産業(株) | 108,468 |
| ユーシーシーフーズ(株) | 71,538 |
| (株)西原商会 九州 | 55,138 |
| (株)西原商会 関東 | 44,754 |
| その他 | 1,437,352 |
| 合計 | 1,861,911 |

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

| 当期首残高 (千円) | 当期発生高 (千円) | 当期回収高 (千円) | 当期末残高 (千円) | 回収率(%) | 滞留期間(日) |
|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------------------|------------------------------|
| (A) | (B) | (C) | (D) | $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$ | (A) + (D) 2 (B) 365 |
| 1,748,516 | 12,802,069 | 12,688,674 | 1,861,911 | 87.2 | 51.5 |

二．商品及び製品

| 品目 | 金額(千円) |
|---------------|---------|
| 業務用洗剤・洗浄剤・除菌剤 | 304,525 |
| 固形燃料 | 127,997 |
| その他商品等 | 77,339 |
| 合計 | 509,862 |

ホ．原材料及び貯蔵品

| 品目 | 金額(千円) |
|-----------|---------|
| 原材料 | 56,312 |
| 副資材 | 94,487 |
| 供給装置・希釈装置 | 108,078 |
| 合計 | 258,878 |

へ．仕掛品

| 品目 | 金額(千円) |
|---------------|--------|
| 業務用洗剤・洗浄剤・除菌剤 | 45,513 |
| 固形燃料 | 3,858 |
| 合計 | 49,372 |

流動負債

イ．支払手形（設備関係支払手形 208,779千円を含む）

相手先別内訳

| 相手先 | 金額（千円） |
|----------------|---------|
| (株)松陽工務店 | 184,627 |
| (株)ヤグチ | 79,205 |
| (株)エムエーパッケージング | 34,627 |
| (株)東罐興業 | 29,365 |
| 豊通ケミプラス(株) | 28,547 |
| その他 | 336,534 |
| 合計 | 692,906 |

期日別内訳

| 期日別 | 金額（千円） |
|---------|---------|
| 平成25年6月 | 158,149 |
| 7月 | 156,620 |
| 8月 | 173,485 |
| 9月 | 131,937 |
| 10月以降 | 72,714 |
| 合計 | 692,906 |

ロ．買掛金

| 相手先 | 金額（千円） |
|-----------|---------|
| 阪本薬品工業(株) | 78,581 |
| 日立化成(株) | 50,906 |
| 大日製罐(株) | 47,970 |
| 比果産業(株) | 24,453 |
| (株)ヤグチ | 22,718 |
| その他 | 262,799 |
| 合計 | 487,429 |

ハ．ファクタリング債務

| 相手先 | 金額（千円） |
|-----------------|-----------|
| グローバルファクタリング(株) | 1,281,560 |

固定負債

イ.退職給付引当金

| 区分 | 金額(千円) |
|--------|-----------|
| 退職給付債務 | 1,270,367 |
| 年金資産 | 467,565 |
| 合計 | 802,801 |

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

| | |
|----------------|--|
| 事業年度 | 6月1日から5月31日まで |
| 定時株主総会 | 8月中 |
| 基準日 | 5月31日 |
| 剰余金の配当の基準日 | 11月30日 5月31日 |
| 1単元の株式数 | 100株 |
| 単元未満株式の買取り・買増し | |
| 取扱場所 | (特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 |
| 株主名簿管理人 | (特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 |
| 取次所 | — |
| 買取り・買増し手数料 | 株式の売買の委託に係る手数料相当額として以下の算式により単元株式当たりの金額を算定し、これを買取った及び売渡請求した単元未満株式の数で按分した金額。 (算式) 1株当たりの買取・買増価格に1単元の株式を乗じた合計金額のうち 100万円以下の金額につき 1.15% 100万円を超え500万円以下の金額につき 0.900% 500万円を超え1,000万円以下の金額につき 0.700% 1,000万円を超え3,000万円以下の金額につき 0.575% 3,000万円を超え5,000万円以下の金額につき 0.375% (円位未満の端数を生じた場合は切り捨てる。) ただし、単元株式数当たりの算定金額が2,500円に満たない場合には2,500円として計算する。 |
| 公告掲載方法 | 電子公告にて行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL (http://www.niitaka.co.jp) |
| 株主に対する特典 | 5月末日の100株以上保有株主様に対し、以下の基準により贈呈いたします。 ・100株以上1,000株未満 ジェフグルメカード(500円) ・1,000株以上 日本旅行ギフト旅行券(5,000円) 11月末日の100株以上保有株主様に対し、自社製品を贈呈いたします。 |

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 剰余金の配当を受ける権利
3. 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
4. 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
5. 単元未満株式の売渡請求をする権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第50期)(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)平成24年8月28日近畿財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度(第50期)(自平成23年6月1日至平成24年5月31日)平成24年8月28日近畿財務局長に提出。

(3) 臨時報告書

平成24年8月29日近畿財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。

(4) 第1四半期報告書及び確認書

(第51期)(自平成24年6月1日至平成24年8月31日)平成24年10月12日近畿財務局長に提出。

(5) 第2四半期報告書及び確認書

(第51期)(自平成24年9月1日至平成24年11月30日)平成25年1月15日近畿財務局長に提出。

(6) 第3四半期報告書及び確認書

(第51期)(自平成24年12月1日至平成25年2月28日)平成25年4月12日近畿財務局長に提出。

(7) 臨時報告書

平成25年5月2日近畿財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 8月27日

株式会社ニイタカ
取締役会 御中

ペガサス監査法人

指定社員 公認会計士 安原 誠吾 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 松山 治幸 印
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ニイタカの平成24年6月1日から平成25年5月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ニイタカ及び連結子会社の平成25年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ニイタカの平成25年5月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ニイタカが平成25年5月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 . 本監査報告書は、原本の記載事項を電子化したものであり、署名捺印された原本は当社が別途保管しております。

2 . 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年 8月27日

株式会社ニイタカ
取締役会 御中

ペガサス監査法人

指定社員 公認会計士 安原 誠吾 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 松山 治幸 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ニイタカの平成24年6月1日から平成25年5月31日までの第51期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ニイタカの平成25年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 本監査報告書は、原本の記載事項を電子化したものであり、署名捺印された原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。